

青森大学ニュース No.30

青森大学の使命と針路を考える

学長 崎谷康文

はじめに

青森大学は、「青森大学ルネッサンス」を掲げ、大学の運営、教育研究、社会貢献など大学の活動全般にわたる改革を進めてきている。改革は、次第に顕著な成果を示している。何よりもうれしいのは、学生が元気になってきている、前向きに行動していると、多くの教職員が感じていることである。基礎スタンダード科目を導入した平成25年度に入学した学生が今4年目の学びに挑んでいる。学年が進むにつれ、学生が学びに向かう意欲と、協働して学ぶスキルを向上させていることが、実感できるようになっている。学生の意欲を感じると、教職員は、自らも努力しなければと自覚する。視点を変えれば、教職員が積極的かつ主体的に改革に取り組んできたからこそ、学生に伝わって、学生ががんばっていると考えられる。双方向の刺激の好循環が効果的な形でさらに大学の質を高め、魅力が発信されていくようにしたい。

しかしながら、現状に満足してはならない。状況は常に動いており、自らの努力を怠れば、存続すら危うくなる。依然として青森大学を取り囲む環境は厳しく、危機は去っていない。人口の急激な減少や地域社会の活動の停滞状況は深刻さの度合いを増している。危機に直面する中、青森大学は、進化し続ける大学、いつも新しい大学でなければならない。

大学政策の中の青森大学の使命

1 青森大学は学問の府であり、「地域とともに生きる大学」である。

青森大学は、昭和43年に設立され、まもなく設立50周年である。青森大学は、私立大学であり、学校法人青森山田学園の建学の精神である、誠実・勤勉・純潔・明朗を教育理念に、「地域とともに生きる大学」として、地域社会の担い手となる若者を育て、地域社会の活性化の拠点となってきた。この基本的な使命は、今後も変わらない。

第二次世界大戦後の六・三・三・四の教育改革により、学校制度は、単線型となった。大学は、学部4年を原則とし、学術の中心として、教養を高め、専門的な知識及び技術を身に付けるための高度な人間教育を行う機関として位置づけられ、戦前の師範学校等は、大学教育に取り込まれた。

青森大学は、学問の府として、教育基本法や学校教育法が定める学校体系に位置づけられ、法制度上の使命は、他の国立、公立、私立の大学と変わらない。学校教育法第83条第1項は、「大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的、応用的能力を展開させることを目的とする。」と定め、同条第2項は、「大学は、その目的を実現するための教育研究を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。」と規定する。大学は、学校教育法及びその体系の法令に基づき、設備、編成その他の設置基準に従い、文部科学大臣の設置認可を受け設立される。ただし、国立大学は、法律（以前は国立学校設置法今は国立大学法

人法)により直接設置されるので、水準確保は前提とされ、設置認可の手続きは要しない。

学校教育法の体系において、大学入学資格、大学院入学資格など、また、教授、准教授、助教等の資格や任務等組織編制、さらには、教育研究等についての自己点検評価や機関別認証評価などについて、国立、公立、私立の大学は、設置形態の別なく、同様の対応が求められている。

2 青森大学は私立大学であり、厳しい財政状況の中で自助努力が必要である。

戦後、進学率が向上し続け、私立大学は、学部学生の77.5%を受け入れている。大学の拡大の主要部分を私学が引き受けている。

国立大学や公立大学に対しては、一定のルールに従い、設置者から財政支援が行われる。国立大学や公立大学の教職員の人件費や基本的な施設設備の維持や更新に関わる経費は、運営費交付金などの形で手厚く措置されている。これに対し、私立大学は、寄付金収入や基本財産等からの収入が確保できればよいが、一般には、学生からの授業料等の収入が最も重要な財政資源となっている。

国立大学又は公立大学の学部の年間の授業料は、約54万円である。これに対し、私立大学は、平均約84万円である。青森大学の授業料は、経営学部と社会学部が64万2千円、ソフトウェア情報学部が98万円、薬学部が130万円である。その他に、実験実習費等が必要である。文系の学部は、国立より多少高い程度であるが、理系になると2倍あるいはそれ以上になる。私立大学は、いずれも同様の傾向である。

私立大学及びその設置者である学校法人は、「私立学校の特性にかんがみ、その自主性を重んじ、公共性を高めることによって、私立学校の健全な発達を図ることを目的とする」私立学校法が適用される。大学を設置する学校法人は、文部科学大臣の所轄となる。

昭和45年度から人件費を含む私立大学等経常費補助が創設され、昭和50年制定の私立学校振興助成法に基づき、私学助成の経常費補助が計画的に拡充されることとなった。私立大学等における経常的経費に占める経常費補助金額の割合は、昭和45年に7.2%であったのが、昭和55年度に29.5%に達した。ところが、国の財政状況が厳しくなり歳出の抑制が図られたため、以降、経常的経費に占める私学助成の割合は低下を続け、平成26年度はわずか10.1%である。平成20年度の資料によると、国立大学への学生一人当たりの公財政支出教育費は197万円であるが、私立大学では14万円に過ぎない。私立大学経常費補助金については、私立学校私学成振興助成法制定時に補助率二分の一を目指すこととされており、私学助成の拡充が急務である。

青森大学への私立大学等経常費補助金は、平成25年度1億6千358万円、26年度1億9千641万円、27年度2億7千212万円であり、金額は増加している。これは、青森大学の教育改革等の状況の評価に基づく特別補助の額が増えているからである。27年度決算によると、青森大学の教育活動収入の合計は約17億円であり、全国の私立大学の平均よりはやや高い割合の補助を受けている。17億円のうち約13億円が学生からの納付金であるが、学生数は現在定員に足りなく、授業料収入が少ないので補助の割合が高くなっている。もし、学生数が倍増すれば、収入が増え、補助の割合は、全国の平均以下になる。

青森大学が今後も安定した財政基盤の下、オール青森で支えられ発展していくためには、教育研究等の充実・活性化を進め、志願者の増大を図り、必要な学生を確保することが何よりも重要である。

3 文部科学省の大学行政の構造と動向を踏まえた努力が必要である。

文部科学省の大学行政は、二重構造である。大学ないし高等教育の制度や共通する支援策に関わる政策は、高等教育局が担当する。その高等教育局が、国立大学の支援策及び公立大学の支援策（総務省と

の連係)を担当していることが状況を複雑にする。大学設置基準等による大学の水準の維持向上、学生や留学生の経済的その他の生活支援などの政策について、国立、公立、私立の大学を公平に見て適用しようとしても、どうしても国立大学のことがよく理解できる分だけ、国立中心の見方により大学施策を考えている、と私は思う。

国立大学法人の第3期中期目標・中期計画に関し、ミッションの再定義を求め、昨年6月に発出された文部科学大臣通知が、教員養成学部・大学院や人文社会科学系学部・大学院について「組織の廃止や社会的要請の高い分野への転換に積極的に努める」と示したことで、人文社会科学を軽視するものだと強い批判が起こった。その後、平成28年度の国立大学運営費交付金の中に3つの重点支援の枠組みを新設し、各大学の機能強化の方向性に応じた取り組みをきめ細かく支援するとした。3つの重点支援の枠組みは、①地域のニーズに応える人材育成・研究を推進、②分野毎の優れた教育研究拠点やネットワーク形成を推進及び③世界トップ大学と伍して卓越した教育研究を推進であり、各国立大学を当てはめた。国立大学86大学のうち①が55大学を占める。弘前大学や秋田大学も①の類型に属する。文部科学省が国立大学の施策を考えると、公立大学や私立大学のことまで考慮する余裕がなく、国立大学だけで完結させようとしているように思われる。公立大学や地方の私立大学に本来期待される役割があることが意識されていない。人材その他の資源が豊富な国立大学が、地方私立大学と同じ役割を行うことは容易であろうが、それでは、国全体として、大学の均衡のとれた発展や大学の役割を達成することは困難ではないか。

文部科学省の高等教育局の中に私学部があり、また、法律で設置された法人として「日本私立学校振興・共済事業団」がある。青森大学は、私学部や私学事業団が行う政策・補助等の動きに的確に応じていく必要がある。

青森大学は、本年度予算に組み込まれた「大学教育再生加速プログラム」の補助を申請した。これは、青森大学の4学部における卒業時の質保証の取組みを強化するため、「青森大学標準ルーブリック」を開発するなどの事業である。この補助については、国立、公立及び私立の大学が応募でき、青森大学は、それらの大学とともに審査される。

青森大学は、本年度の私学助成予算の「私立大学研究ブランディング事業」に応募する準備を鋭意進めている。これは、学長のリーダーシップの下、優先課題として全学的な独自色を大きく打ち出す研究に取り組む私立大学に対し、経常費・施設費・設備費を一体として重点的に支援するものである。青森大学は、地域の経済、社会、雇用、文化等の発展により地域社会の再生・活性化を実現することに資することを旨とし、文系、理系が揃った青森大学のあらゆる能力を総合的に発揮して、短命県の返上、健康長寿社会の構築、少子高齢化への対策、地域コミュニティの再生、市街地の再生や技術革新等による地域経済や観光の活性化、情報通信技術の活用などに関し、全学的な優先課題としての多面的、総合的な研究体制を構築し、計画的に推進する事業を示して、応募することとしている。

このように、私立大学は、大学として、国立、公立と横並びで競うことを基本としつつ、同時に、私立大学間での競争に立ち向かう必要がある。

青森大学の針路を拓いていくために

1 高等学校との接続、地域社会との連携を図り、教育の質を各段に向上させること

— 3つの方針の見直しを進めること —

文部科学省の大学政策の重点的な課題は、高等学校教育と大学教育の接続を強化し、教育の質を向上

させ、大学入試を改善して、未来社会を担っていくことができる人材を育成することである。平成26年12月22日の中央教育審議会答申「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について～すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花咲かせるために～」は、学力の3要素である「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性・多様性・協働性」の全てを十分に向上させることを目指し、高大接続改革を進めるとしている。

答申は、高等学校教育における「確かな学力」は、

- ① これからの社会で生きていくために必要な、主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）を養うこと、
- ② その基盤となる「知識技能を活用して、自ら課題を発見しその解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力」を育むこと、
- ③ さらにその基盤となる「知識・技能」を修得させること、であるとする。

その上で、大学においては、①、②、③の確かな学力、それをさらに発展・向上させるとともに、それらを総合した学力を鍛錬することとする。そのため、教育内容、学修・指導方法、評価方法、教育環境を抜本的に転換するとしている。

「主体性・多様性・協働性」を育成する観点からは、大学教育を、従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、学生が主体性を持って多様な人々と協力して問題を発見し解を見いだしていくアクティブ・ラーニングに転換し、特に少人数のチームワーク、集団討論、反転授業、実のある留学や単なる職場体験に終わらないインターンシップ等の学外の学修プログラムなどの教育方法を実践することを提言している。

青森大学は、平成25年度から基礎スタンダード科目を導入し、アクティブ・ラーニング、体験的学習を積極的に取り入れた授業を進めており、学生の主体的な学修の充実を図っている。今後、この成果を深化させつつ、専門科目の充実した教育により、未来の社会を切り拓く実践的な能力の育成に一層努力していく必要がある。

高大接続答申は、大学全体としての共通の評価方針（アセスメント・ポリシー）を確立した上で、学生の学修履歴の記録や自己評価のためのシステムの開発、アセスメント・テストや学習行動調査等の具体的な学修成果の把握・評価方法の開発・実践、これらに基づく厳格な成績評価や卒業認定等を進めることが重要であると述べている。

本年3月31日に学校教育法施行規則が改正され、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針及び入学者の受入れに関する方針という3つの方針を策定し公表することが大学の義務と定められた。青森大学は、既に、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針及び入学者の受入れに関する方針を策定しており、「生涯をかけて学び続ける力」、「人とつながる力」及び「自分自身を見据え、確かめる力」の3つの力を学生に身に付けさせる教育を行っている。

学校教育法施行規則改正に関する指導通知によると、3つの方針については、中央教育審議会大学分科会大学教育部会が3月31日にまとめた策定及び運用に関するガイドラインを参考指針とすべきことが述べられており、本学としては、大学全体及び各学部のこれら3つの方針について、指導通知の趣旨を踏まえ、青森大学らしさを備えた、より適切な方針となるように見直すことが必要である。このような3つの方針を見直し、入学者選抜、大学の教育課程と教育方法、評価の在り方等の改革を進め、学生の学習成果が可視化できるようにするための改革に取り組む必要がある。シラバス、GPA、ルーブリック等を導入し、教育の改革を進めているところであるが、学生の学習成果を的確に把握するために

は、「青森大学標準ルーブリック」を開発し、「学修ポートフォリオ」システムを整備し活用していくことが必要である。

3つのポリシーの見直しなどの教学マネジメントの改革は、教学改革タスクフォースを中心に進めていく。

2 人口減少社会の克服を目指し、地域社会の活性化の担い手となる人材を育成すること

日本の人口は減少傾向が続いており、1億2,700万人であり、出生数の減少に伴い、特に、高齢者層が増加し、6月に発表された、昨年の国勢調査の人口速報集計結果によると、65歳以上人口の割合が四分の一を超え、26.7%に達した。青森県は、65歳以上の人口が29.9%を占め、人口減少が著しいが、東京圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）の人口は増加しており、3,613万人で、全国のおよそ四分の一以上（28.4%）を占める。東北地方や九州地方などの地方の人口が減少し、東京への一極集中の傾向は改善されていない。

地域社会を再生・活性化していくためには、地域の資源を活用して、経済、社会、文化等の活動の充実を図り、地域社会で活躍できる人材の育成を進めていくことが必要である。そのためには、大学の機能を存分に発揮していくことが大いに期待され、青森大学もその重要な役割を担う必要がある。青森大学は、6割以上の学生が青森県出身であり、青森市や平内町と包括的連携協定を結ぶなど、青森県域の地方公共団体や経済団体等と連携協力関係を強めるとともに、地域貢献演習等の授業などを通じて学生が地域社会の人々と交流し、地域社会の課題を見つけ、創造的に解決策を考えることができるよう指導している。

3 青森大学への進学の意味と効用を明確にし、本当の大学人材を育てること

昨年（平成27年）5月1日の学校基本調査によると、我が国の高等学校卒業者の大学等進学率は、54.5%である。専門学校（専門課程）への進学率は16.7%である。青森県は、高等学校卒業者の大学等進学率は、44.0%であり、専門学校（専門課程）への進学率は14.5%である。東京都の高等学校卒業者の大学等進学率は、66.8%であり、専門学校（専門課程）への進学率は11.9%である。

大学への進学の際の地域格差は著しく大きい。マーチン・トロウは「高学歴社会の教育—エリートからマスへ」において、高等教育は該当年齢人口の15%までのエリート段階、15%を超え50%までのマス段階、そして50%を超えるユニバーサル段階へと発展していくと説いた。マーチン・トロウは、エリートからマスへと進展していく過程において質的な変化が生じ、様々な矛盾が明らかになることを論じたが、現在の日本の高等教育の状況はどのような段階にあるのか。全国平均ではユニバーサル段階であり、東京都などの都会はかなり進んだユニバーサル段階であるが、東北地方や九州地方のほとんどの県の大学等進学率は5割以下であり、マス段階にとどまっている。

このような地域格差を生じさせた理由は様々に複雑に絡み合っている。地方に魅力ある大学が多ければ、また、地方の経済活動が高度化され大学人材の需要が大きければ、地方の進学率はもっと上昇していたかもしれない。

やはり、最も大きな理由は、経済的理由である。2月12日の朝日新聞への投書は、看護師の母親が「幸いにも私は手に職があったので、上の子を2年間の専門学校に入れることができたが、4年制の大学を希望されたら諦めてもらうしかなかった。そんな事情をくんでか、下の子は進学を希望せず、高卒で社会に出た。親の収入によって生じた『低学歴』が『親孝行』になるような社会は、とても貧しい社会ではないだろうか。」というものであった。平成26年度のひとり親の家庭の大学等進学率は、23.

9%（専修学校等を加えれば41.7%）である。

独立行政法人日本学生支援機構による奨学金は有利子と無利子があり、近年、支給の対象が拡大しているが、私立大学の授業料など納付金の額の大きさや返済の困難さを考え、大学への進学を断念する者もかなり存在する。所得連動返還型奨学金制度を平成29年度から導入することが決まり、6月2日の「ニッポン一億総活躍プラン」（閣議決定）に、「給付型奨学金については、世代内の公平性や財源などの課題を踏まえ創設に向けて検討を進め、本当に厳しい状況にある子供たちへの給付型支援の拡充を図る」と述べられている。

大学への進学への機会は、能力に応じて均等に与えられなければならない。我が国は、経済的、社会的及び文化的権利に関する規約（A規約）の第13条第2項（c）の「高等教育は、すべての適当な方法により、特に、無償教育の漸進的な導入により、能力に応じ、すべての者に対して均等に機会が与えられるものとする」との「特に、無償教育の漸進的な導入により」に拘束されない権利を留保していたが、平成24年9月11日に同留保を撤回する旨を国際連合事務総長に通告したので、政府としては、今後、高等教育について無償教育の漸進的な導入を進めることが施策として盛り込まなければならない。

朝日新聞への投書からも読み取れるが、高等学校卒業者の進学先として、大学と専門学校（専修課程）は明らかに性格が異なるものとして認識されている。学校教育法第124条が規定するように、専門学校（専修学校の専門専門課程）は、学校教育法第1条の学校体系外の教育施設であり、高等学校卒業を入学の要件とするものの、職業教育若しくは实际生活に必要な能力を育成し、又は教養の向上を図ることを目的として組織的な教育を行う、ものである。職業訓練学校やビジネススクール、コンピュータスクールなどの専門学校（専門課程）は、学問を基礎とする人格形成の教育を行う大学と比べると、即効的、補完的な役割を担っている。大学は、学問の最先端の研究に関わる教員が確かな教養と高い専門性を育てることにより、既存の知識や技能を使いこなせるだけでなく、想定外の事態に対処し、新たな課題に挑戦し切り拓くことができる能力を育てる。

人工知能（AI）やロボットの発展などもあり、今後10～20年程度で約47%の仕事が自動化される可能性が高い（マイケル・A・オズボーン、オックスフォード大学準教授）、2011年度に子ども小学校に入学した子どもの65%は大学卒業時に今は存在していない職に就くだろう（キャシー・デビットソン、ニューヨーク市立大教授）というような予測がある（産業競争力会議雇用・人材・教育WG（平成27年2月17日）への文部科学省提出資料より）。

大学は、このような状況を踏まえ、新しい知識や技術を学び続け、想定外の事態に、自由な発想で立ち向かっていく逞しさを備えた人材を育てなければならない。大学教育は、豊かな人間性と確かな教養を基盤として、論理的、科学的な思考力と客観的な批判力や未来への洞察力を持つ人間を育成する。大学教育の質的向上策は、このような観点から、大学の機能の充実を目指している。

同時に、考えるべきことは、我が国大学進学率は、OECD（経済協力開発機構）諸国の中でも低く、地域間格差が著しいことである。また、新入生は18、19歳がほとんどで、一度社会へ出てから入学してくる成人の比率が低い。人口減少が急速に進み、生産年齢人口が急減する中、人材一人ひとりの能力を格段に高め、大学人材層の厚みを増すことが喫緊の課題となっている。したがって、大学人材の質的向上に加え、大学人材の増強策—大学進学率の向上策—を進めることが急務である。大学進学率の向上を目指し、私学助成や奨学金の充実・増強のための施策がさらに進められていくことが必要である。

大都市圏への学生の集中を是正して、地方創生のための方策として、昨年度（平成27年度）から、

文部科学省は、私立大学等経常費補助金について、全額不交付となる基準を大規模大学（収容定員8,000人以上）は入学定員充足率が1.1倍以上（これまでは1.2倍以上）の場合とするなどの措置を決め実施している。ところが、近畿大学、東洋大学等の大規模大学12校が平成29年度の入学定員を約4,000人増やす申請を行い、認められたとのことである。学生の都市集中を抑制する施策の強化が望まれる。

4 大学の魅力の一層の向上を図るため、学部等の再編と教育改革を進めること

大学において学ばなければ身に付けることが困難な、ものの見方や考え方がある。大学での学業を通じて備えることができる広い汎用能力と高い専門性を持って、社会人として羽ばたいていけば、大学での学びが自分自身の人生の成長の糧となり、社会に貢献する力となる。専門学校や職業訓練学校などで、実践的、即効的な能力を身に付けても、学び続けることができなければ、知識や技術は陳腐化し、言われたことさえできなくなってしまう。既存の枠や旧来の観念を乗り越え、未来を創る力を育てるのが大学教育の利点である。

青森大学は、大学本来の使命をしっかりと果たしながら、時代を先取りして、未知の世界に挑戦していける人材の育成のための教育の改革を続けている。学問に裏打ちされる理論を読書や講義で学ぶだけではなく、地域社会の実態の中に入り込み、人々と交流し、協働作業を行うなどの体験を重視する教育へと転換を進めている。このような学びにおいて集中して考え、様々な選択肢の中から解決策を判断するなどの積み重ねが、知識や技能の定着を図り、思考力を強化していくことになる。

青森大学の教育改革は、このような考え方を教職員が共有して推進している。基礎スタンダード科目を導入し、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法へと改善を図り、専門科目をより合理的、体系的に整えて、教育評価の充実・改善を進めている。

青森大学は、設立時からの経営学部、社会学部、ソフトウェア情報学部及び薬学部を加え、小規模ながらも文系理系がそろった総合大学である。この本学の大きな特色、強みを生かす必要がある。現代そして未来の社会は、様々な個性や能力を持つ人材の協働により築かれる。経営学部や社会学部などから企業に就職したとき、営業の際に自社の工業製品を理解し説明しなければならない。ソフトウェア情報学部や薬学部を卒業し技術者になり薬剤師になったとき、知識や技術が優れているだけではなく、コミュニケーション能力や表現力が備わっていなければ、人間味のある技術者あるいは薬剤師として認められない。

青森大学経営学部は、平成29年度から総合経営学部へ名称変更する。経営、商学、経済等に加え、関連して、社会学や情報に関する知識や技能についても広く学ぶことができ、また、スポーツビジネスコースもあり、スポーツ産業、体育の理論や実技、そして保健体育の教員免許を取得することができる。このような教育研究の広がり、通常の経営学部を超えるものである。総合経営学部と名称変更し、次のような視点での教育の改善を進め、地域社会を支え、未来を拓く総合的実践力を育てる教育の充実を図っていききたい。

① 現在の産業社会、地域経済の動向等を踏まえ、問題解決型学習を取り入れた、経営、経済等の学びの充実—商業、工業、農林水産業等の充実、市街地の活性化、街づくり、地方中小企業の再生、商品開発、マーケティングなど、②地方経済の厳しい状況を克服し、地方から発信できる事業を起業し、また、地域の特色を生かした事業を承継し、発展させていくための知識や技術、挑戦力の育成、③商業高校との連携を図るなどにより、簿記・会計の科目の充実強化—資格取得の支援、④産業経済の専門的知識を身に付けながら、情報システムの技術を学び、企業等で活躍できる人材を育成する教育の充実、⑤

産業経済の専門的知識を身に付けながら、スポーツについての学びを生かし、保健体育の教員免許の取得やスポーツ関係団体、スポーツ、健康関連の企業等への就業を目指す教育の充実、⑥経営、経済、会計、スポーツビジネス等の学びを深め、公務員や金融機関等への就職を目指す学生に対するキャリア教育の充実、さらに、社会学部とソフトウェア情報学部の教育の充実と相互の連携を図り、コミュニティの再生・活性化や市街地の再生等の課題について体験的に学び、情報技術に関する資格を得るなどにより、未来の地域社会を担っていく人材を育てていけるようにしたい。

社会学部は、社会学、心理学等の学びを基盤に、現代社会における人間関係や組織の在り方等について、実践的に学び、応用力を生かして、地域社会に貢献できる人材を育てている。今後、①地域のコミュニティの再生・活性化について、体験的に学び、人口減少社会の中で、高齢者から若い世代までの交流を進めることができるコーディネータとしての能力を育て、②企画、統計、調査等に関する知識や技術を身に付け、企業や団体等において企画力や調査力を発揮できる人材を育て、③観光社会学、産業社会学等地域経済の活性化に資する分野の知識、能力を身に付け、関連産業において活躍できる人材を育て、④青森の地理、歴史、文化に関する知識を深め、観光、流通、生産等の広い分野において、地方から発信していくことができる能力を育て、⑤高齢化が進む現代社会における福祉の在り方について実践的に学び、社会福祉士又は精神保健福祉士の資格が取得できるよう、充実した教育を行うことが重要な方向となる。

ソフトウェア情報学部は、急速に進展する情報社会において、本物のITスキルを身に付け、人と触れ合い協働する能力を発揮して、あらゆる業種で活躍できる人材を育てており、①工業高校や商業高校からの入学者だけでなく、普通科高校、総合学科高校からの文系・理系の入学者に対し、基礎数学やプログラミングの学修という基礎から丁寧な指導を行い、最新の技術を使いこなし、新しい価値を創造できる人材を育て、②実践的、体験的な学修を徹底して、企業等において活用できるコミュニケーション能力を育て、③観光、地域コミュニティ、社会福祉、経営等の分野との連携を図り、ITを有効に活用することができる能力を育て、④情報技術者に関する資格を取得し、企業等においてシステム開発をすることができる知識や技術を持つ人材を育てることに努力を傾注していく必要がある。

社会学部とソフトウェア情報学部は統合し、現代社会における様々なコミュニティや地域社会の人間関係、組織の在り方などに関わる課題について、社会学、社会福祉、情報技術などの能力を生かし、解決策を見つけて果敢に挑戦していける人材を育てていきたい。さらに、総合経営学部と社会学部とソフトウェア情報学の統合による学部は相互の連携を強めて、地域社会を担う人材育成の拠点としての機能が発揮していけるようにしたい。

さらに、健康長寿社会を目指し、生き生きとした活動があふれる地域社会を作っていくために、薬学部をはじめとする各学部の教育研究の能力の格段の発揮と大学全体としての有機的な協働が極めて重要である。

学長の活動（平成28年1月～6月）

〔随筆・評論等〕

青森大学ホームページの学長ブログ

随想「大空を見上げて」

第46回「新春を迎えて」

第47回「雪のいろいろ」

第48回「未来を担う学生を育てる」

第49回「主権者教育」

第50回「文化庁の京都移転」

第51回「核軍縮への道程」

評論「学びの温故知新」

第45回「義務教育費国庫負担制度の改革の議論の決着へ」

第46回「教員の心の健康」

第47回「教員の研修と教員免許更新制」

第48回「校長の指導力と職員会議」

第49回「国を愛する心と教育」

第50回「学校教育の中の国旗と国歌」

「教育プロ」（株式会社ERP発行）掲載の「時評」

「教育の政治的中立性」（平成28年2月23日号）

「進路指導の在り方」（平成28年4月19日号）

「ゆとりとの訣別へ向けて」（平成28年6月21日号）

「内外教育」（時事通信社）掲載の「ひとこと」

「大学人材の拡充を」（第6508号（平成28年6月17日））

「内外教育」（時事通信社）掲載の「ラウンジ」

「学校体系をどうするか」（第6476号（平成28年2月5日））

「フリースクールを認めるのか」（第6490号（平成28年4月1日））

「JAPAN ICOMOS/INFORMATION 10期2号」（日本イコモス国内委員会）（平成28年6月）への寄稿

「第8小委員会（バッファゾーン）バッファゾーンに関する問題についての議論の進捗状況」

〔社会的活動等〕

日本イコモス国内委員会監事・第8小委員会委員長（理事会1月30日、理事会3月19日、理事会6月11日、第8小委員会3月19日）

公益財団法人文化財建造物保存技術協会理事（理事会3月14日、理事会6月6日）

公益財団法人がん研究会評議員（評議員会6月21日）

公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構理事（理事会5月25日）

独立行政法人日本芸術文化振興会芸術文化振興基金運営委員会文化団体活動専門委員会専門委員（委員会2月19日、委員会2月22日）（平成27年12月21日の委員会にも出席）

全学の動向

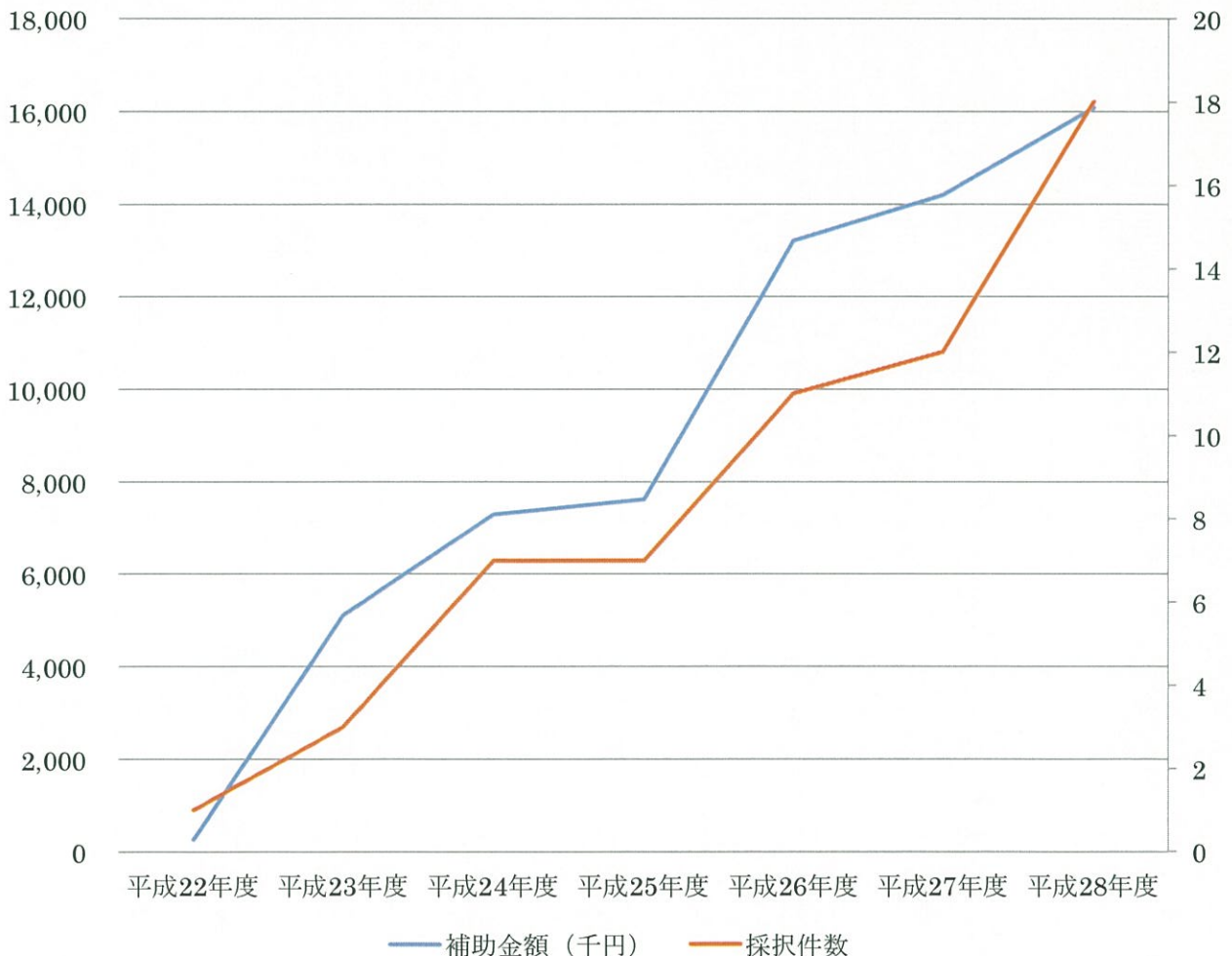
平成 28 年度科学研究費助成金の採択状況の概要

文部科学省科学研究費助成事業

文部科学省の事業である科学研究費助成事業の採択件数は、各大学で研究能力・実績を示す指標として重要視されています。近年、本学の研究者が関わる課題の採択件数及び補助金額は増加傾向にあり、平成 22 年度は 1 件（26 万円）であったものが、平成 26 年には 11 件にまで増えました。平成 28 度は、採択件数では 18 件、助成額では 1,607.8 万円ま

年度	補助金額(千円)	採択件数
平成 22 年度	260	1
平成 23 年度	5,109	3
平成 24 年度	7,298	7
平成 25 年度	7,623	7
平成 26 年度	13,203	11
平成 27 年度	14,196	12
平成 28 年度	16,078	18

で伸び、採択件数及び助成額ともに過去最高となりました。本学では平成 22 年度から平成 28 年度までの 6 年間で、上記の表及び下記のグラフに示すように、毎年採択件数及び採択額が前年度の採択件数及び採択額を上回っており、本学の研究に対する体系的な取組み実績効果であると考えております。補助金額、採択件数、研究テーマなどは、下記の表（①から③）のとおりです。



①平成 28 年度新規採択状況

本学研究者	研究テーマ	今年度補助金額	助成区分・期間
(研究代表者) 経営学部 石塚 ゆかり 准教授	日台韓のロコミ行動に関する対照研究－医療と観光サービスに対する評価を中心に	1,820,000 円 直接経費 1,400,000 円 間接経費 420,000 円	基盤研究(C) (平成 28～30 年度)
(研究代表者) 経営学部 吉川 昌則 教授	アルペンスキーにおける高速ターン技術の実滑走計測・解析と定量的評価	2,730,000 円 直接経費 2,100,000 円 間接経費 630,000 円	基盤研究(C) (平成 28～30 年度)
(研究代表者) 社会学部 中村 和生 准教授	初等・中等教育における「自然(現象)の科学的理解」の相互行為分析	1,713,400 円 直接経費 1,318,000 円 間接経費 395,400 円	基盤研究(C) (平成 28～30 年度)
(研究代表者) ソフトウェア情報学部 紅林 亘 助教	一般化位相縮約理論が拓く生体リズム現象の予測と制御に向けた新展開	1,560,000 円 直接経費 1,200,000 円 間接経費 360,000 円	若手研究 (B) (平成 28～30 年度)
(研究代表者) 薬学部 中田 和一 教授	航空需要に対応する海上設置型ローカライザの設置条件に関する研究	832,000 円 直接経費 640,000 円 間接経費 192,000 円	基盤研究(C) (平成 28～30 年度)
(研究代表者) 薬学部 大越 絵実加 准教授	薬を創る薬剤師	直接経費 344,000 円	ひらめきときめきサイエンス (平成 28 年度)
(研究分担者) 社会学部 澁谷 泰秀 教授 ソフトウェア情報学部 小久保 温 准教授	高齢者の認知機能の相違とエゴ・ネットワークに現象する特殊詐欺脆弱性リスクの解明	458,120 円 直接経費 352,400 円 間接経費 105,720 円	研究代表者 秋田県立大学 渡部 諭 教授 基礎研究 (C) (平成 28～30 年度)
小計①			8,053,520 円 (7 件)

平成 28 年度新採用教員の科研費採択状況

本学研究者	研究テーマ	今年度補助金額	助成区分・期間
(研究代表者) 薬学部 岡島 史和 教授	pH 環境を感知する OGR1 受容体ファミリーの作用機構と生体機能 (転出元の大学からの継続研究)	1,950,000 円 直接経費 1,500,000 円 間接経費 450,000 円	基盤研究 (B) (平成 27~29 年度)
小計②			1,950,000 円 (1 件)

③前年度からの継続研究 (科研費)

本学研究者	研究テーマ	今年度補助金額	助成区分・期間
(研究代表者) 薬学部 大越 絵実加 准教授	口腔癌がん幹細胞の標的治療(抗 CD44 療法)後に誘発される多剤耐性化の解明と克服	780,000 円 直接経費 600,000 円 間接経費 180,000 円	基盤研究(C) (平成 26~28 年度)
(研究代表者) 経営学部 沼田 郷 教授	日本と台湾における光学産業の成長と連鎖	390,000 円 直接経費 300,000 円 間接経費 90,000 円	基盤研究(C) (平成 26~28 年度)
(研究代表者) 経営学部 渡部 あさみ 講師	先進諸国におけるホワイトカラー労働者の労働時間管理	650,000 円 直接経費 500,000 円 間接経費 150,000 円	若手研究 (B) (平成 26~28 年度)
(研究代表者) ソフトウェア情報部 小久保 温 准教授 (研究分担者) 社会学科 澁谷 泰秀 教授	郵送調査と Web 調査のハイブリッド調査から完全 Web 調査への移行に関する研究	353,600 円 直接経費 272,000 円 間接経費 81,600 円	基盤研究(C) (平成 26~28 年度)
(研究代表者) 経営学部 岩淵 護 准教授 (研究分担者) 経営学部 中村 和彦 准教授	取引費用モデルを活用したクラスターネットワーク形成と地域活性化に関する実証的研究	780,000 円 直接経費 600,000 円 間接経費 180,000 円	基盤研究(C) (平成 27~30 年度)

堀籠 崇 准教授 松本 大吾 講師			
(研究代表者) 社会学部 澁谷 泰秀 教授 (研究分担者) ソフトウェア情報学部 小久保 温 准教授	高齢者の生活の質を維持・向上させる自動的心理プロセスに基づいた認知習慣の研究	1,235,000 円 直接経費 950,000 円 間接経費 285,000 円	基盤研究(C) (平成 27~29 年度)
(研究分担者) 社会学部 澁谷 泰秀 教授 ソフトウェア情報学部 小久保 温 准教授	社会学的知見に基づく Web 調査の 代表性の分析	781,300 直接経費 601,000 間接経費 180,300	研究代表者 奈良大学 吉村 治正 教授 基盤研究 (C) (平成 27~29 年度)
(研究分担者) 社会学部 榎引 素夫 教授	人口減少期の都市地域における空 家問題の解決に向けた地理学的地 域貢献研究	507,000 直接経費 390,000 間接経費 117,000	研究代表者 広島大学 由井 義通 教授 基盤研究 (B) (平成 27 年~30 年度)
(研究分担者) 社会学部 澁谷 泰秀 教授 柏谷 至 教授 榎引 素夫 准教授 田中 志子 准教授	人口減少社会の外国人統合政策 ~青森県における外国籍者の事例 から~	208,000 円 直接経費 160,000 円 間接経費 48,000 円	(研究代表者) 青森公立大学 佐々木 てる 准教授 基盤研究(C) (平成 26~28 年度)
(研究分担者) 社会学部 中村 和生 准教授	精神障害者の当事者研究場面の相 互行為的構造: エスノメソドロジ ーによる解明	390,000 円 直接経費 300,000 円 間接経費 90,000 円	(研究代表者) 三重県立看護大学 浦野 茂 教授 基盤研究(C) (平成 26~28 年度)
小計③			6,074,900 円 (10 件)

総計 (①+②+③)	16,078,429 円 (18 件)
------------	---------------------

平成 28 年度青森大学教育研究プロジェクト

学長裁量経費による平成 28 年度青森大学教育研究プロジェクトは下記の研究プロジェクトと決定しました。

平成 28 年度 青森大学教育研究プロジェクト

研究推進部門

No.	プロジェクト名	代表者氏名	参加者氏名
1	食品成分の生活習慣病予防効果に関する研究	薬学部 益見 厚子	岩船 裕志（薬学部 5 年生）、 佐藤 伸（青森県立保健大学教授）
2	細胞内寄生性細菌に対するインターロイキン-33 が誘導する自然免疫細胞活性化作用の解析	薬学部 福井 雅之	
3	キラルスルホキシドを用いた 2 点不斉アルドール反応の開発	薬学部 中北 敏賀	鈴木 克彦、植木 章晴
4	ノシセプチンやその代謝物による記憶機能制御に関与する分子メカニズムの解明	薬学部 三輪 将也	上家 勝芳
5	生物学的応用を指向した集積型ルイス a タンデムリピートの合成	薬学部 植木 章晴	鈴木 克彦、中北 敏賀
6	後発医薬品のメーカーによる品質差異の比較検討	薬学部 井沼 道子	三浦 裕也
7	バキュロウイルスベクターを用いたガンワクチン開発とガンに対する効果の解析	薬学部 水谷 征法	水野 憲一、木立 由美 阿部 一生、五月女 雄一、筒井志帆（薬学部 5 年生）
8	北東北地域における光学産業の発展プロセス－技術移転と地場企業の創出を中心に－	経営学部 沼田 郷	

教育改革部門

No.	プロジェクト名	代表者氏名	
9	企業および業界研究を通じた学生の就業意識の向上プロジェクト－活かした経営学の体得－	経営学部 中村 和彦	森 宏之
10	地域貢献活動と連携した授業展開の実践試行ならびに学生への効果の検証	社会学部 櫛引 素夫	沼田 郷、坂井 雄介
11	青森いきいき脳健康プロジェクト （“高齢社会対応” 地域密着型青森大学のブランディング）	薬学部 大上 哲也	*参加者多数のため申請書参照

出張講義などの実施状況

平成27年7月から12月現在までの出張講義申し込み状況は、以下の通りとなっています。

NO	依頼先	講義日	氏名	学部	講義テーマ
1	あおもり若者プロジェクト クリエイト	平成28年 2月27日	櫛引 素夫	社会学部	新幹線が地域に与える影響について
2	あおもり若者プロジェクト クリエイト	平成28年 3月13日	櫛引 素夫	社会学部	北海道新幹線開業を生かしたまちづくり
3	青森市沖館市民センター	平成28年 4月23日	中田 吉光	経営学部	元気アップル体操
4	藤崎町福祉課健康係	平成28年 6月3日	藤林 正雄	社会学部	改めて『聴く』を学ぶ
5	青森県立浪岡高等学校	平成28年 6月24日	清川 繁人	薬学部	陸奥湾を回遊するイルカ
6	青森県立浪岡高等学校	平成28年 6月24日	角田 均	ソフトウェア情報学部	ゲーミフィケーション ～ゲームの力で世界を変える～
7	あおもり健考会	平成28年 9月6日	上田 條二	薬学部	漢方について
8	クラ・ゼミ青森篠田校	平成28年 9月10日	鈴木 康弘	社会学部	幼児・児童の発達について
9	青森菱友会	平成28年 9月15日	三浦 裕也	薬学部	先発品と後発品の上手な使い分けについて
10	クラ・ゼミ青森篠田校	平成28年 9月24日	鈴木 康弘	社会学部	ABA 応用行動分析について
11	黒石市企画財政部企画課	平成28年10 年4日	櫛引 素夫	社会学部	地域防災をどう向上させるか
12	(公社)青森県不動産鑑定士協会	平成28年10 月14日	櫛引 素夫	社会学部	新幹線ネットワークを考える
13	クラ・ゼミ青森篠田校	平成28年10 月15日	船木 昭夫	社会学部	SST・指導者の研修
14	クラ・ゼミ青森篠田校	平成28年10 月17日	船木 昭夫	社会学部	障がい者差別解消法
15	五戸町教育委員会	平成28年10 月26日	大上 哲也	薬学部	いきいき脳健康教室
16	青森市立佃中学	平成28年11	大上哲也	薬学部	いきいき脳健康教室

	校	月 9 日			
17	独立行政法人高 齢・障害・求職者 雇用支援機構青 森支部	平成 28 年 11 月 10 日	船木 昭夫	社会学部	カウンセリング
18	青森市中央市 民センター	平成 28 年 11 月 16 日	水野 憲一	薬学部	医薬品の効くしくみ
19	青森市学校保 健会	平成 28 年 11 月 22 日	船木 昭夫	社会学部	メンタルヘルス・SST
20	岩手県立久慈 東高等学校	平成 28 年 11 月 25 日	藤林 正雄	社会学部	人間関係で悩まないために
21	青森市中央市民 センター	平成 28 年 12 月 2 日	上田 條二	薬学部	身近な民間薬
22	一般社団法人日 本産業カウンセ ラー協会東北支 部	平成 28 年 12 月 3 日	船木 昭夫	社会学部	青森県内事業所におけるメンタ ルヘルスの現状と課題、対策につ いて
23	独立行政法人 鉄道建設・運 輸施設整備支 援機構	平成 28 年 12 月 7 日	岩淵 護	経営学部	コンプライアンスに関する様々 な問題事例とその対策
24	青森市中央市 民センター	平成 28 年 12 月 13 日	大越 絵実加	薬学部	医薬品以外の薬学分野
25	NPO 法人ほほ えみの会	平成 28 年 12 月 19 日	船木 昭夫	社会学部	対人援助のためのケースカンフ ァレンスの方法

大学の行事（平成 28 年 1 月～6 月）

- ・ 3 月 18 日 学位記授与式
- ・ 4 月 2 日 入学式
- ・ 5 月 27 日 寺山修司忌

鈴木教授などが「アクティブ・ラーニングを考える」の演題で講演

平成 27 年度青森県高等学校教頭・副校長会東青支部冬季研修会（平成 28 年 1 月 19 日（火）開催）において、本学社会学部の鈴木教授、澁谷教授及び田中准教授が、「アクティブ・ラーニングを考える」の演題で講義・演習を行いました。



講義・演習は一部と二部で構成され、一部では澁谷教授が「アクティブ・ラーニングとは何か」について 20 分ほどで解説し、二部では、鈴木教授が、25 名の参加者にワールド・カフェ方式によるグループ学習とプレゼンテーションを行ってもらい、アクティブ・ラーニングの模擬授業を行いました。



参加者は 4 つのグループに分かれて、主体的学習を積極的に体験しました。普段の「教える立場」とは反対の「学ぶ立場」への転換を楽しみながら、それぞれのグループは、通常のアクティブ・ラーニングでは 1 か月程度必要とされる分量の作業を約 1 時間で終え、配布された模造紙にグループで議論された様々な内容を満載しました。最後に行われた発表では、内容豊富で非常に興味深いプレゼンテーションが展開されました。

青森商業高校生と青森大学学生が共同で作った青森商業高校文化祭アプリの発表会

平成 28 年 1 月 27 日(水)午後に青森商業高校で、青森商業高校生と青森大学学生が共同で作った青森商業高校文化祭アプリの発表会が開催されました。

発表会では、アプリの開発に取り組んだ青森商業高校情報処理科 3 年生 8 人と青森大学ソフトウェア情報学部 4 年の石川佳実さんが、高校 2 年生にプロジェクトについて紹介しました。



「フリーペーパーをアプリ化すれば、最新情報をお届けでき、もっと効果的に集客できるはず！」

平成 26 年度、青森商業高等学校の課題研究で優秀と認められた「フリックンでショッピング！～新町商店街活性化のために～」はそんな企画提案でした。平成 27 年度、青森大学と青森商業高等学校の高大連携の取り組みとして、この企画の実現化に挑戦しました。今年度は実現可能性の検証として、青森商業高等学校の文化祭「青商祭」をターゲットに、アプリの開発と運用に取り組みました。大学生がプロジェクト・マネジメントと内部設計・プログラミング・テスト、高校生が企画とカスタマー・サポート、共同で要件定義・外部設計を担当しました。また、平成 27 年 10 月 17 日(土)・18 日(日)に開催された青森商業高校文化祭「青商祭」で実際に活用しています。



アプリでは、出展一覧・ステージのスケジュール・マップなどの基本情報を見ることができるほか、出展者が Twitter のツイートのようにタイムセールなどの最新情報やクーポンを発信でき、閲覧者がそれらの情報に Facebook の「いいね！」のように「応援する」ことができます。アプリは Ruby on Rails、jQuery Mobile を組み合わせてスマホ向けに開発し、クラウドサービスの Heroku で運用するなど、高度

な技術を活用しています。

今回の取組みは、アプリの開発を通じた高大連携による「人材育成」プロジェクトと言えます。高校生と大学生が、IT企業における実際のアプリ開発・運用と同様に、企画・設計・実装・運用に、自分たちの力で取り組みました。アプリを共同開発して現実に運用していくのは、高校生や大学生にとっては初めてのことばかりで、想像もしなかった数々の困難に出会い、打ち合わせの進め方・段取り・スケジュールリング・顧客に対する理解・広報・責任感などの重要性を学び、大きく成長しました。



青森大学と青森商業高校は連携協定を締結し、経営学部・ソフトウェア情報学部が、高大接続による高校生のキャリア意識の醸成と教育の高度化に尽力してきました。今回の取組みもその一環として行われました。

平成26年度校内生徒商業研究発表大会

フリックンでショッピング！
～新町商店街活性化のために～



◎メンバー 班長 櫻庭祐那(3334)
後藤朝穂(3128)
山田愛弓(3238)
神 涼希(3325)
宮本美花(3435)

◎指導教諭 柴崎健太郎

青森山田学園のねぶたがカップラーメンに登場しました！！

日清食品より発売された「麺ニッポン 青森濃厚煮干しラーメン」のパッケージに、昨年ねぶた祭に出陣した青森山田学園のねぶた「阿修羅と帝釈天」（北村隆作）がデザインされております！



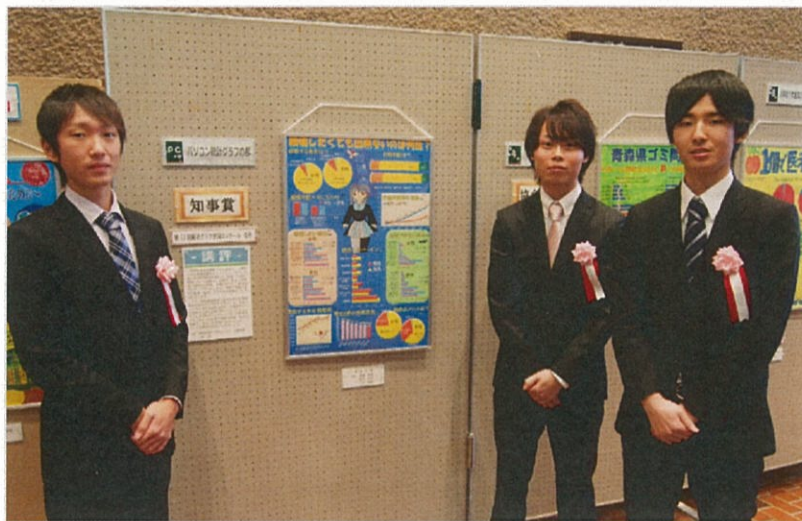
是非、お試しください！！

社会学部2年生の研究発表内容が紹介されました

「月刊れぢおん青森」2016年2月号に、社会学部2年生の研究発表内容が紹介されました。



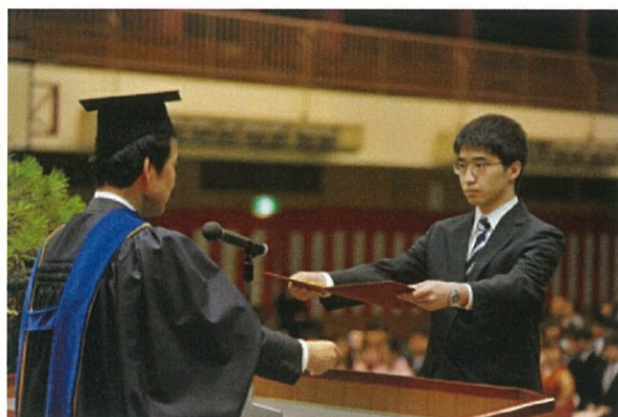
青森地域研究所の機関誌「月刊れちおん青森」の2月号に青森県企画政策部統計分析課が『「青森県統計グラフコンクール」からみえること』と題する批評を寄稿しています。その中で3ページにわたり、平成27年度青森県統計大会（弘前市）に招待された、社会学部2年生の須藤大貴・舛沢将汰・今井裕樹の3名の共同研究発表「結婚したくても出来ないのは何故？」が取り上げられています。学生たちが求める、若い世代が結婚しやすい社会を実現するために、労働環境の整備や就労支援等の政策上の工夫等の提案が評価されています。（「青森県統計グラフコンクール」については平成27年11月24日の最新情報をご覧ください）



（左から）舛沢 将汰さん、今井 裕樹さん、須藤 大さん

平成27年度 学位記授与式

3月18日（金）、4学部162名の卒業生が学位記を授与されました。



崎谷学長は『天は自ら助くるものを助く』といいます。青森大学で学んできたことに誇りをもって、困難な課題に挑戦してください。」と卒業生に励ましの言葉を送りました。岡島理事長は、青森大学での生活で学んだ、青森のよさ、すばらしさを心に抱いて、地域社会を担う人材に育ってくださいとお祝いのことばを述べました。



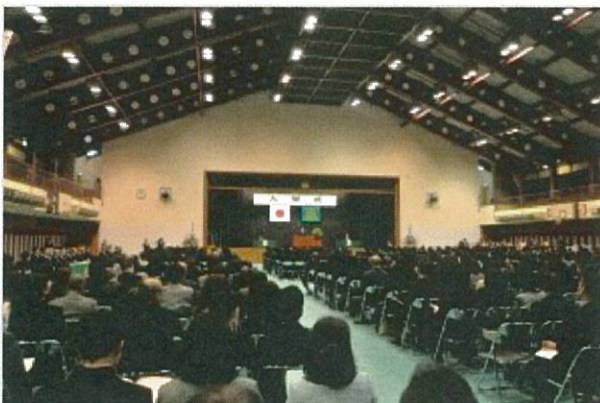
[発表 4]

タイトル: 太宰の見た青森 —失われた街並みの再創造—

発表者: 工藤貴裕(3年生), 坂本一吉(4年生)

内容: 社会学部の工藤研究室と共同で進めている街並み再現の取組みについて、これまでの卒業生による成果と、現在進めている新たな「再創造」のための様々な試みを報告しました。

平成 28 年度青森大学入学式挙行



平成 28 年度青森大学入学式を 4 月 2 日に正徳館で挙行了しました。新入生 247 名、編入生 7 名、合計 254 名が入学しました。

式典で崎谷学長は、「初心を大切に充実した学生生活を送ってほしい」と式辞を述べました。岡島理事からは、「青森の景色、食、文化に触れてほしい。時間を見つけては自分というものを考えてほしい」と祝辞がありました。



新入生代表とし、経営学部の中村匠吾くん（北海道伊達高校出身）が、「社会に貢献できる人間になりたい。教養と高度な専門知識を身に付け、希望を掲げ、好奇心を持って勉学に励みたい」と宣誓を行いました。



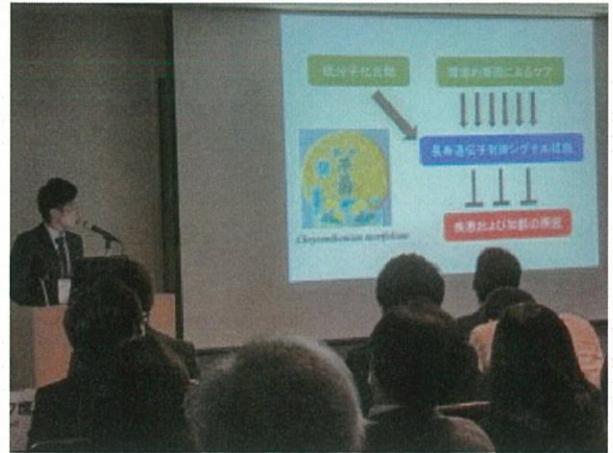
式後には、入学説明会が行われ、「青大生が作る青森大学学部紹介」が行われました。

日本薬学会第 136 年会で薬学生が研究発表しました

薬学部の在学学生 2 名が平成 28 年 3 月 28 日（月）に、日本薬学会第 136 年会で発表しました。

テーマ「青森県産食品素材に関する研究に関する研究—干菊の成分研究第 2 報—」

干菊は青森県の特産品として知られ、キク科植物 *Chrysanthemum morifolium* の花卉を蒸して乾燥させたものである。菊の花は『神農本草経』に記載されており、古来より延命長寿の花として知られているが、それらを裏付ける科学的根拠や含有成分についてはほとんど報告されていない。我々は加齢に伴う生体機能の低下予防を目的とし、老化・寿命を制御する重要な因子として知られている SIRT1 の発現を指標としたキク乾燥花卉 MeOH 抽出エキスの成分研究を行った。



発表者 本木 雅大（発表時 4 年生）

テーマ「頭頸部扁平上皮癌の CD44 過剰発現は細胞周期 G2/M 期の DNA 修復シグナル経路による mitotic catastrophe に抵抗する」

頭頸部癌は頭頸部という複雑な部位に発生することから外科的切除が難しく、たとえ切除しても患者の Quality of life を著しく低下させる。CD44 は、頭頸部癌におけるがん幹細胞の表面マーカーであり、CD44 陽性癌細胞は陰性細胞と比較して、抗癌剤や放射線による治療に対して抵抗性を示すことから癌の再発に関わっていると考えられている。今回我々は、baicalein により頭頸部癌が刺激され CD44 が過剰発現されると細胞周期 G2/M 期における checkpoint kinase 1 (Chk1) を介した mitotic catastrophe に対して抵抗性を示すことが示唆されたので報告する。



発表者 村上 浩一（発表時 4 年生）



学生による大学紹介

今年度の入学式（4月2日実施）において、新入生に向けて歓迎の気持ちをこめ、学生たちが大学紹介をしました。



その模様は、ホームページの『学生による大学紹介(動画)』から見ることができます。

第23回寺山修司忌

第23回寺山修司忌が、5月27日（金）青森大学中庭にある校歌歌碑前で行われました。

第1部 式典

第2部 特別講演「寺山修司 埋もれた作品探しの旅」社会学部 教授 久慈きみ代



学生・教職員、約 270 人が参加。青森大学校歌の作詞が寺山修司という縁から、毎年 5 月に行われています。

式典では、学生代表が青森大学校歌への思いを語ってくれました。その後、献花、学生による朗読「五月の詩」「懐かしのわが家」が披露され、式典は終了しました。

第 2 部での、特別講演では、久慈教授が新しく発見された寺山修司資料のエピソードを披露し「探求」の大切さ、「学び」の楽しさを学生たちに熱く語りました。

青森大学オープンキャンパス 2016 開催！

6 月 11 日（土）、青森大学オープンキャンパス 2016 が開催されました。ご来場いただき、誠にありがとうございました。



今回のオープンキャンパスは、「大学ってどこをのぞいてみよう！」をキーワードに、青大生が準備・運営を行いました。青大生が大学生活を披露した後、参加者は大学の授業を体験しました。最後は青大生とのフリートークイベントに参加してもらい約 100 名の参加者は、新緑の校内を行来きしながらオープンキャンパスを楽しんでいました。



次回オープンキャンパスは、8月6日です。ねぶた祭と同時開催！オリジナルイベントを学生グループがまた準備してくれています。楽しみです。みなさんのご来場を心からお待ちしております。



平成28年度 第1回定例記者会見 開催

6月16日（木）、学長会見を開催しました。

崎谷康文学長は、青森大学の改革が着実に進展していること、そしてさらに魅力を高めていくために新しい改革を進めていることについて、①経営学部の総合経営学部への名称変更、②卒業生の就職状況、

③18歳選挙権に関するアンケート調査、④科学研究費助成金の獲得状況を話題として取り上げ、説明しました。



崎谷学長は、経営学部の名称変更について、「経営学部は、青森大学で最も伝統のある学部であり、経営、会計、経済、商学等の専門科目に加え、情報システム、地域社会などを学ぶ、関連科目を充実させてきています。また、社会学部、ソフトウェア情報学部、薬学部と共同し、『基礎スタンダード科目群』（教養科目の再構築）により、主体的学修（アクティブ・ラーニング）を進め、確かな教養と学びのスキルを育ててきています。さらに、スポーツビジネスコースを設け、現代社会におけるスポーツと産業との関わりやスポーツに関する理論と実践を学び、商業に加え、保健体育の教員免許が取得できるカリキュラム構成を取っています。これらの教育改革・充実の状況から見ると、本学の経営学部は、一般の経営学部における主要な分野の教育研究はもちろん、関連する幅広い分野について総合的に学ぶことができる学部となっている。したがって、教育研究内容をより適切に示す『総合経営学部』とすることが適当であり、平成29年度から全学年一斉に総合経営学部になります。

これからの総合経営学部の教育は、地域社会を支え、未来を拓く総合的実践力を育てるため、①現在の産業社会、地域経済の動向等を踏まえ、問題解決型学習を取り入れた、経営、経済等の学びの充実—商業、工業、農林水産業等の充実、市街地の活性化、街づくり、地方中小企業の再生、商品開発、マーケティングなどの教育を進め、②地方経済の厳しい状況を克服し、地方から発信できる事業を起業し、また、地域の特色を生かした事業を承継し、発展させていくための知識や技術、挑戦力の育成を図り、③商業高校との連携を図るなどにより、簿記・会計の科目の充実強化—資格取得の支援を行い、④産業経済の専門的知識を身に付けながら、情報システムの技術を学び、企業等で活躍できる人材を育成する教育を充実し、⑤産業経済の専門的知識を身に付けながら、スポーツについての学びを生かし、保健体育の教員免許の取得やスポーツ関係団体、スポーツ、健康関連の企業等への就業を目指す教育を充実して、⑥経営、経済、会計、スポーツビジネス等の学びを深め、公務員や金融機関等への就職を目指す学生に対するキャリア教育の充実を図ります。」と述べ、加えて、「これに呼応して、社会学部とソフトウェア情報学部の相互の連携を強め、教育の格段の充実を図り、総合経営学部とともに、現代社会、特に、地域社会の再生と活性化を担っていくことができる人材の育成を強力に進めます。」と改革の方針を述べました。関連して、崎谷学長は、29年度入試から、インターネット出願ができるようにしたことを述べました。

崎谷学長は、「民間企業への就職率は、10年以上連続で90%を超えており、平成27年度は過去最

高の98.3%となりました。青森大学の学生が可能性を大きく伸ばし、未来を拓く実践力を身に付けていることが評価されています。公務員や教職関係にも多くの学生を送ることができました。青森大学の就活プログラムと学生のキャリアに対する意識の向上の成果と考えています。昨年度からは、就職支援の体制を格段に強化しています」と、説明しました。

崎谷学長は、「公職選挙法の改正により選挙権年齢が満18歳以上に引き下げられ、青森大学の学生全員が選挙権を有することになったことを踏まえ、4月のオリエンテーション、ガイダンスの機会に、18歳選挙権について考えるよう呼びかけるとともに、学生全員に対し、現状や将来についての満足感や希望等について、また参議院選挙に投票するかなどについて、アンケート調査を行った。参院選に投票する意図があったとした学生は、1年生が51.13%、2年生が41.85%であった。高等学校の主権者教育が影響しているとも考えられる」などと説明しました。

研究活動の状況については、「本年度の科学研究費の採択件数は13件と、昨年に続き高い水準で、助成額は1872万8千円と昨年を上回り、過去最高になりました。青森大学の教員は研究に熱意があり、研究活動を充実し、研究成果を活かして、教育・社会貢献活動を進め、地域に役立つよう、努力しています。外部からの研究資金の獲得が進んでいるのは、このような努力によるものです。」と述べました。

その後、アンケート調査の分析などに関連して多くの質問等が出され、活発な記者会見となりました。

ソフトウェア情報学部の学生がIT関連イベントで講演！

平成28年6月25日(土)午後に三沢市立図書館で開催されたJAWS-UG青森の勉強会で、青森大学ソフトウェア情報学部の4年生の澤田洋二くんが講演やスタッフで活躍しました。後輩たちもたくさん応援にかけつけ、活気あるイベントになりました。



今日の様々なアプリやサービスは、インターネット上のサーバーとデータをやりとりしています。昔は自社でサーバーのハードを用意するものでしたが、今やクラウドを使っているサーバーがたくさんあります。クラウドとは、使う側から見ると、簡単にいろいろなところが拡張できる高機能なレンタルサーバーのようなものです。クラウドを提供している企業にはGoogle、Microsoft、さくらインターネットなどたくさんあります。青森でも、寒冷な気候を活かした「青い森クラウドベース」が昨年竣工しました。

消防団出前授業 IN 青森大学！

1月14日、地域貢献基礎演習C組の学生(2年生)の学生を対象に、青森県総務部防災消防課の主催で「消防団出前授業 IN 青森大学」が開催されました。



消防団活動の現状や団員の減少、消防団の活動内容について現役消防団員の青森市青森消防団第三分団の野土谷泰大さんと青森市青森消防団青桜分団の工藤美佳さんから説明していただきました。



学生消防団員募集も兼ね、県消防協会と青森消防本部の方も入ってディスカッションが行われましたが学生からも活発な意見が出されていました。

基礎スタンダード科目の授業「地域貢献基礎演習」で、教員へのインタビュー新聞を作成しました

基礎スタンダード科目の授業「地域貢献基礎演習」において、1年生のチームが教員へのインタビューを実施し新聞を作成しました。授業の5回分で、新聞の構成やインタビューの仕方等を学び、実際にインタビューし、PCを利用した新聞作成を行いました。1月19日（火）には、8チームの新聞の閲覧会を実施し、他のチームが作成した新聞をすべて閲覧し、相互評価を行いました。

全投票数... 28票

「見やすい新聞」

角田新聞... 8票、コシヒカリ新聞... 6票、新聞鈴木... 5票

「内容がわかりやすい新聞」

コシヒカリ新聞... 10票、新聞鈴木... 5票、ソフトクラブわくわく日記... 4票

「面白い新聞」

角田新聞... 20票、ソフトクラブわくわく日記... 4票、コシヒカリ新聞... 2票

学生たちは、他者の作成した新聞を見ることで、自分たちに足りないものが身をもって分かったかと思えます。

評価の高かった新聞を掲載します。



鈴木先生に聞いてみた！！

鈴木

地域支援課 青森大学 青森キャンパス 青森

発行元 青森大学
発行所 地域支援課
発行年 平成26年

鈴木先生は、青森大学教員として活躍されています。先生は、青森大学でどのような生活を送られているのでしょうか。先生に聞いてみました。

大学の先生にならうとしたいきっかけは、鈴木先生が大学の先生にならうと思っただけです。先生は、青森大学の先生にならうと思っただけです。先生は、青森大学の先生にならうと思っただけです。

鈴木先生は、青森大学の先生にならうと思っただけです。先生は、青森大学の先生にならうと思っただけです。先生は、青森大学の先生にならうと思っただけです。

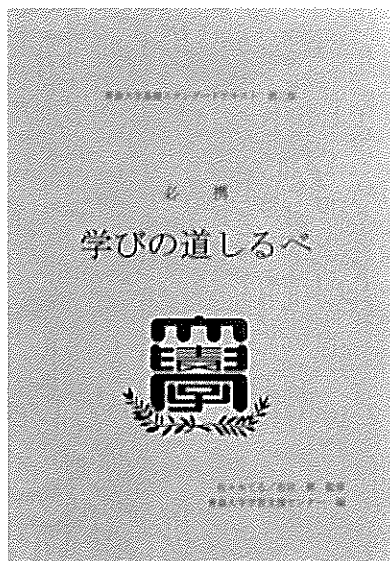
鈴木先生は、青森大学の先生にならうと思っただけです。先生は、青森大学の先生にならうと思っただけです。先生は、青森大学の先生にならうと思っただけです。

鈴木先生は、青森大学の先生にならうと思っただけです。先生は、青森大学の先生にならうと思っただけです。先生は、青森大学の先生にならうと思っただけです。



青森大学基礎スタンダードテキスト『学びの道しるべ 第二版』出版

本テキストは、平成 25 年に導入した青森大学基礎スタンダード科目に沿った本学のオリジナルテキストです。平成 26 年に初版を出版しましたが、内容を一部見直し、第二版発行の運びとなりました。本テキストは、青森大学教職員による、青大生のためのテキストであり、我々教職員一同の教育に対する思いが凝縮した1冊となっています。



じょっぱり経済学 開講

国際ロータリー第 2830 地区の寄附講座「じょっぱり経済学」が、4 月 6 日から青森大学図書館新館でスタートしました。



青森大学は、平成 27 年 10 月国際ロータリー第 2830 地区（青森県全域）と教育連携に関する協定を締結しました。本講座は、本学と国際ロータリー第 2830 地区との連携講座であり、青森県内を代表する企業や大手企業の青森支店のトップ、専門業種に携わる専門家を毎回講師に招き、各業界の現状や将来的な展望を語る全 15 回の講座です。この講座は基礎スタンダード科目であり、一般の方の受講ができるようにしています。



第 1 回目は、山崎淳一氏（五所川原商工会議所 会頭 税理士）をお招きし、「仕事は何のためにするのか」「五所川原」をテーマに、語っていただきました。



新しい公務員講座を開設しました

公務員を目指す学生を対象に、これまでも公務員講座を行っていましたが、今年度から公務員講座をリニューアルして、「東京アカデミー」との提携により、次に示すような青森大学独特の新たな公務員講座を開始しました。

- ① 時間割の中に組み込まれたスケジュール：平日の5限目や土曜・日曜に行っていた講座を時間割に組み込み、平日の午前中に行います。これにより、部活動やサークル活動等との両立ができるようになりました。
- ② ステップアップ式のカリキュラム：1年生の基礎ステップから始まり、2年生、3年生と、発展、実践ステップに進みます。ステップアップ方式で行うことで、確実な力が付きます。現在、1年生 42名、2年生 17名、3年生 10名が受講しています。
- ③ 受講時間を最多クラスに設定：1年生から3年生まで受講すると、全国の学内講座の中でも最多の時間となります。
- ④ 県内外の公務員試験情報を提供：青森県内の地方自治体の他、警察、消防を含めすべての公務員試験の情報が提供されています。また、国家公務員や他県の情報も取り寄せることが可能です。
- ⑤ 集団討論・面接対策：集団討論や面接対策などの2次試験の指導を行います。

青森大学学術研究会

「青森市のまちづくりについて」学術研究会特別講演会を開催

青森大学学術研究会は、5月23日（月）、アクティブ・ラーニング教室で特別講演会を実施しました。講師は、西秀記（株）西衡器製作所取締役社長で「青森市のまちづくりについて」お話しいただきました。西氏は、青森商工会議所副会頭（まちづくり担当）や青森市中心市街地活性化協議会会長などを務めておられ、講演では、協同組合青森総合卸センター理事長として、流通機能向上のため、オール青森で取り組んでいること、さらに、青森市の中心市街地が空洞化している状況を改善し活性化するための計画について、様々な指標を示しながら解説されました。

講演後の質疑応答では、学生や教員から多くの質問や熱意ある意見が出され活発な議論となりました。西氏は、大学生が中心市街地に出向き行動することが活性化のために必要なことを強調されました。市街地の活性化をはじめとする様々な地域の課題に対し、青森大学がこれからも積極的に取り組んでいく必要があることを改めて確認しました。



青森大学学術研究会特別講演会：「地域産業課題へのICTの利用」

青森大学学術研究会では、平成28年6月9日(木)青森県産業技術センター工業総合研究所電子情報技術部の小野浩之部長をお招きし、「地域産業課題へのICT利活用 ―新規ビジネスモデルの創出―」というテーマでお話いただきました。具体的には、最近注目されているIoT（Internet of Things：モノのインターネット）の動向、高齢化の進行に備えた高齢者支援システムの研究・開発など多くの事例が紹介されました。紹介された事例の中には本学卒業生が在学中から関わったものもあり、今後、青森県産業技術センターと本学の連携をより密接なものにしていくことを確認し、講演は盛況のうちに閉会しました。



青森大学附属図書館

附属図書館では、図書館に勤務している学生アルバイトの皆さんに学生向けの図書館ニュースを作成してもらいました。これは、図書館のさまざまな情報を学生目線で編集し、同じ学生に向けて発信してもらうことで、図書館利用の活性化につなげようという企画です。

学生向けのため、内容がわかりやすいように工夫し、少しずつでも定期的に発信していくことで、図書館への興味を持ってもらえるよう作成していく予定です。

順次、添付ファイルでご紹介していきますのでご覧ください。

ニュースのタイトル「よむ☆よむ」も、学生アルバイトの皆さんがつけてくれました。

第1号は「図書館がどこにあるか」という紹介です。

青大図書館ニュース
よむ☆よむ
青森大学図書館誌 No.1 2016.6.3

学生の皆さん！ 青森大学図書館を**利用**していただくの準備はいいですか？
今日は開館について簡単に紹介したいと思います。これを読んでぜひご確認ください！

新館
新館は学生駐車場の隣にあり、文学や歴史、スポーツなど主に教養分野の本があります。他にも青森県内の郷土資料や幸山亭等に關する資料、視覚障害用図書も設置されています。正面玄関にはブックポストも設置されているので図書返却の際はご利用ください！

本館
図書館本館は4号館内にあり、主に専門書や雑誌、各種専門雑誌などがあります。レイアウトを自由に変更することができるラウンジスペースや学習用の個人ブースが新設されました！

図書館開館の時間
本館：8:30~19:50
新館：8:30~16:50
※夏休み中は延長開館 19:50まで営業いたします。

一階開館時間変更のお知らせ
7月(水) 14:30より(本館)
8月(金) 8:30~12:15(本館)
14:30~17:30(新館)
都合のため変更させていただきます。

「よむ☆よむ」ですべてのページを閲覧いただけます。

青大図書館ニュース
よむ☆よむ
青森大学図書館誌 No.2 2016.6.16

図書館の検索検索システムは、インターネット経由でもどこからでも使えます。皆さんはこのことを存じていますか？
今回はこの検索システム/webOPACの使い方を紹介します。操作方法は簡単、青森大学HP内のバーから検索システムにアクセスし、キーワードを入力して検索するだけ。これで青森大学図書館蔵書やCNに全国の大学図書館が収録する雑誌や本、論文を調べることができます。NEXUS(国立国会図書館)の蔵書から資料を見つけることができます！
<https://lib.mori-u.ac.jp/webopac/search/>

青森大学図書館蔵書検索システムの使い方

1. ホームページへアクセス
2. 検索
3. 検索完了

検索結果

検索結果一覧
検索結果一覧
検索結果一覧

併せては図書館蔵書にもお尋ねください。
何かあれば青森大学HPからお問い合わせください。

青大図書館ニュース
よむ☆よむ
青森大学図書館誌 No.3 2016.6.29

図書館新館について！！
今回は**新館**について簡単に紹介します！

新館に所蔵されている図書
主に教養分野
・文学
・歴史・スポーツ
・青森県関連資料など

ブックポストについて
新館入口に返却用のブックポストを設置しています。図書館が開館している時などにご利用ください。

寺山修司コーナー
寺山修司関係資料をまとめて置いています！

閲覧コーナー
読書や勉強に！
たくさん資料を置いて利用できる明るくオープンな読み心地の良いスペースも設置されています。

特別講義などで使用する視聴覚室は3階です！
他にもたくさん資料が置いてあります！ぜひ一度ご利用ください。

就 職 課

就職セミナー事前指導を行いました

2月29日（月）にホテル青森で開催される就職セミナーに向け事前指導が行われました。



学生はもちろん、教員もグループに分かれ、身だしなみから面接時のマナーまで丁寧に指導に当たりました。



青森大学では教職員、全員全力で3年生の就活を応援しています！

3学部合同就職セミナーを開催いたしました

2月29日（月）、ホテル青森にて『3学部合同就職セミナー』を開催いたしました。

第一部には69社、第2部には72社、合計で141社もの企業様にご参加いただきました。学生たちは明日から本格的にスタートする企業採用活動を目前に、キリリと引き締まった表情で臨みました。



事前指導でも本番の面接のようと言われてきているので、はじめは緊張した様子でしたが、回を重ねるごとに笑顔も見られるようになりました。

大切なのは、『なりたい職業』ではなく『やりたいこと』。自分の人生で何を達成したいのかということ。簡単なことではありませんが、大学生活で学び、成長してきたことに自信を持って、じっくり考えて動いていくことが重要であることを学生たちも自覚したと思います。

【 青大生が選ぶ！ 本当に入りたい企業セミナーを初めて開催 】

3月6日（日）から10日（土）の午後1時から4時まで本学の6号館において、青森大学・就活応援隊（代表：ソフトウェア情報学科2年川村唯）が主催する「青大生がつくる企業セミナー」が開催されました。参加企業の依頼は、就職課のサポートを得ながら学生が主体的に企業を選定して、県内外から様々な業種の50社近くが参加しました。昨年からの就活のスケジュールが変更して3月スタートになり、当時の3年生にとっては、短期決戦の就活になりましたが、このような中でも今回が2度目の試みである学生自身が中心となって準備する企業セミナーが行われました。昨年度と異なるのは企業セミナーを始める前に記念ホールにて各企業のプレゼンが行われましたが、学生ならではの面白い企画と言えました。

就活応援隊は、1年生も含む2年生が中心となって3年生の就活を後押しするという画期的な企業セミナーですが、実行委員会の学生たちは、企業セミナーの準備はもとより、企業セミナーが始まると、きびきびと対処して、10日の最終日までしっかりと務め上げました。



課題はあるものの、昨年に比べて今回はさらにバージョンアップした企業セミナーになりましたが、今回はメディアからも注目された極めて意味のある企業セミナーとなりました。(佐藤豊)

薬学部就職セミナーを開催しました

4月6日(水) ホテル青森にて、薬学部5年生34名・6年生51名、計85名の学生を対象とした薬学部就職セミナーを開催いたしました。

青森県内外の病院・調剤薬局などの企業・団体51社様にご参加頂きました。セミナーに参加した学生は、企業ご担当者から様々な話を聞き、今後の就職活動の意欲が高まると同時に、国家試験に向けた勉強も、気持ちを新たに頑張っています。



学 生 課

田中美咲さん 東北カーリング選手権大会優勝！！

1月23～25日、青森市スポーツ会館で行われた第29回東北カーリング選手権大会に、ソフトウェア情報学部1年生の田中美咲さんがチーム「あおもりユース」のスキップとして参加し、見事優勝を果たしました。

「あおもりユース」は東北ブロック代表として、2月6日～13日に同じ青森市スポーツ会館で開催される第33回日本カーリング選手権大会(NHK BS1で放送予定)に出場します。田中さんは2年前の第31回日本カーリング選手権大会にもチーム「青森ジュニア」のメンバーとして出場し、9チーム中6位の成績を収めています。今回はそれよりも上を目指して頑張りたいとのこと。地元での開催になりますので、是非みんなで応援に行きましょう！

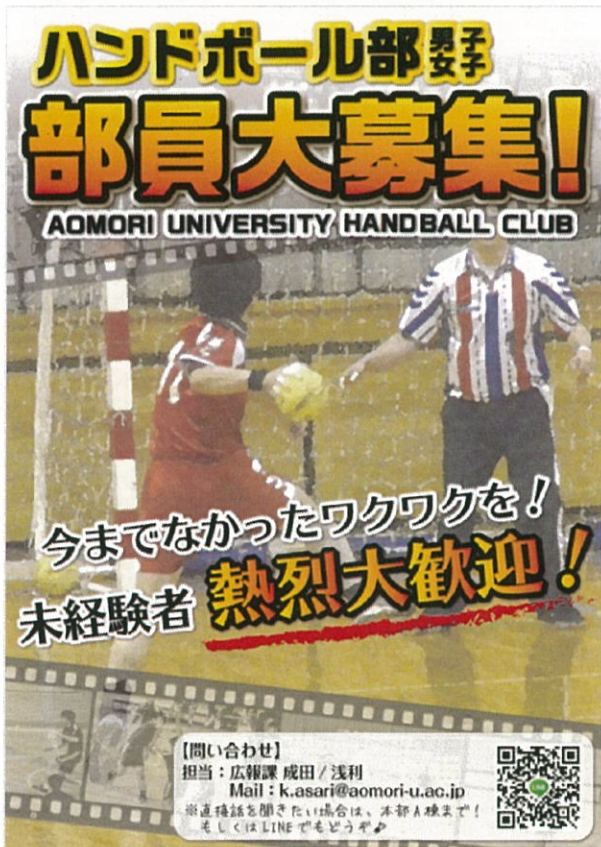


田中美咲さん（左端）と「あおもりユース」の皆さん

第3回 青森市ハンドボールフェスティバル 優勝！

2月11日（木）、青森東高等学校の体育館で行われた、第3回青森市ハンドボールフェスティバルに、青森大学が参加し見事優勝を果たしました。

青森大学には4月からハンドボール部が創設されます。ハンドボール部の創設の第一歩として良い結果を残すことができました。これからも頑張っていきましょう！



桜とこぶし

4月の中旬になり、大学中庭の桜が七分咲きとなりました。まもなく満開を迎えそうです。桜の開花とともに青森大学の講義が本格的に始まり、青大生は、勉学に部活動にと励んでいます。同じく、構内

に咲く、こぶしも満開。花言葉は、友情、歓迎。満開のこぶしが、新入生を温かく迎えています。



熊本地震 義援金の募集

熊本地震義援金の募金活動が、4月19日、20日に学友会の学生と教職員有志により行われました。ご協力ありがとうございました！



今後は、大学本館事務室に募金箱を設置いたします。よろしくお願ひします。
義援金は、日本赤十字社を通じてお送りすることになっています。



熊本地震義援金送金のご報告

4月19日から5月8日まで実施しました熊本地震義援金の募金ですが、期間中の募金額は47,328円でした。皆様のご協力、ありがとうございました。

また、本日5月9日に日本赤十字社へ振り込みを行い、義援金をお送りしましたのでご報告いたします。

振替払込請求書受領証	
口座番号	001304
支店番号	265072
振替先	日本赤十字社 熊本地震 災害義援金
金額	¥47328
依頼人	青森大学
科目	0 28-05-09 青森学園 郵便局
備考	免除 (84265) 19A220003

この受領証は、大切に保管してください。

田澤君、東北インカレ四連覇を達成！！

5月13～15日、宮城県のグランディ21において行われた第69回東北学生陸上競技対校選手権大会で、田澤凌亮君（経営4年）が砲丸投四連覇を達成しました。



《おもな大会結果》

女子 1500m タイムレース決勝

1組： 福田紗羅 5分18秒39 組9着

2組： 田中美千穂 5分22秒25 組8着

男子ハンマー投決勝

工藤和也 33m85 8位

男子 1500m 決勝

堀内裕人 4分04秒41 2位

男子砲丸投 決勝

田澤凌亮 14m19 1位

なお、田澤君は全日本インカレ出場も決定しましたので、応援よろしくお願ひします。

男子バレーボール部、1部昇格（東北リーグ1部）！！

5月29日（日）をもちまして1か月に渡った東北大学リーグが終了しました。
本学男子バレーボール部は、めでたく1部昇格（東北リーグ1部）を果たしました。



応援をいただいた皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

硬式野球部春季リーグ戦終了 本学は第3位

5月28～30日にかけて、リーグ戦初となる3校のプレーオフが行われました。



本学は富士大、八戸学院大に惜しくも敗れ、第3位で春季リーグ戦を終えました。



ご声援、ありがとうございました。我々に足りないものを埋めるべく秋季リーグ戦に向け始動します。

学生がつくる商店街新聞 「どさあ？ yOMISE さ！」 発行！

学生がつくる夜店通り商店街新聞、「どさあ？ yOMISE さ！（第8号）」が発行されました。今回ご紹介させていただいたお店は、ベジタブルキッチン「PEPINO」さんです。旬の野菜に強いこだわりをもつ同店では、どの料理をいただいても野菜を摂ることができます。

発行日：2016年1月10日 発行者：青森大学沼田チーム 第8号

旬の野菜にこだわり
ベジタブルキッチン PEPINO

「ペピーノ」さんは、青森駅から歩いて約10分の場所
にあり、今年で8年目を迎える
お店です。ホップでかわいら
しい外観でガラス越しに店
内の様子が見え、明るくオー
プンな内装はオーナー・本間
義隆さんのこだわりだそう
です。
ジュニア野菜ソムリエの資格
を持つ本間さんは、使用する
野菜は「旬」にこだわって
います。コンソメは「この
料理を食っても野菜が食べら
れる」ことになり、ハンバー
グでは旬の野菜を11
種類も盛り込みます。
人気を集めている
のは日替わりのセッ
トメニューです。ハ
ンバーグやパスタな
どのメイン料理に、

新鮮なサラダ、デザート、飲
み物がついて千円前後です。
アルコールメニューは、フル
ーツの特有の風味をプラスし
たフレーバービールの種類が
充実しており、お酒と一緒に
料理を楽しむこともできま
す。
皆様も気軽に足を運んでみ
てはいかがでしょうか。

PEPINO 季節限定メニュー！

煮込みハンバーグ 940円(単品)

野菜たっぷりビーフシチュー 1360円(単品)

●お知らせ●
「めざせ！ 鍋横綱コンテスト まちなか巡業」
開催決定！！
開催日時 平成28年2月7日(日)
開催場所 新町キューブ
時間 午前11:00～(常風限定)
青森の食の魅力が詰まった美味しい鍋料理を一杯100円
で提供します！ぜひご堪能ください。
企画主催：青森大学 沼田チーム

ベジタブルキッチン PEPINO
住所 青森県青森市新町1-12-4
TEL 017-718-5569
営業時間 10:00～20:00
(ラストオーダー 19:30)
定休日 日曜日

青森市まちなかフィールドスタディ支援事業、高齢者や障がい者が買い物しやすい街づくり事業、「～教えてください、あなたの「便利」を～」を実施しました

平成28年2月7日(日)に、新町キューブで社会学科社会福祉学コース田中ゼミの3年生が、車いす・高齢者疑似体験を一般の方に体験してもらうイベントを行いました。

当日はまず、自立生活センター青森の代表である和田英人さんに、「高齢者・障がい者が買い物しやすい街づくりに期待すること」と題して講演いただきました。和田さんはご自身が車いすを利用していらっしゃることから、街で買い物をした時に困ったことや、障害のある方が買い物している時に一般の方にしてほしいこと、してほしくないことを体験を交えて分かりやすくお話してくださいました。



講演の後、参加者の方々に車いすで新町を走行していただきました。体験後、参加者の方からは「ちょっと雪が積もっているだけで、とても走りにくい」「いつもの目線と違い、かなり低い位置になるので、少し怖い」などの感想をいただきました。

また高齢者の疑似体験セットを使い、高齢者の生活の不自由さを体験していただきました。目にゴーグルをつけ白内障に近い状態や肘や膝を固定して片麻痺（かたまひ）の状態をつくりました。その状態でドアの開け閉めや雪道での不自由さを感じていただくことができました。

イベントを運営した社会福祉学コース田中ゼミの3年生も、これまで学内で学んだ知識や技術を地域に還元することができ、良い機会となりました。



2月14日スノーフェスティバル開催！！

昨年度から始まった幸畑ヒルズスノーフェスティバルが2月14日（日）本学中庭で開催されました。

雪が多い幸畑だからこそ楽しめる冬のイベントです。雪すべり台やミニかまくら、雪玉ストラックアウトなど、盛りだくさんの催しを準備して次のとおり開催しました。

第2回幸畑ヒルズスノーフェスティバル

平成28年2月14日（日）9時～19時

会場：青森大学中庭／6号館「集いのスペース」

主催：幸畑ヒルズスノーフェスティバル実行委員会

共催：幸畑団地地区まちづくり協議会／幸畑ヒルズイノベーション／青森大学

こっはた
第2回 幸畑ヒルズ
スノーフェスティバル
 平成28年2月14日(日) AM9:00~PM7:00
 会場: 青森大学 中庭(屋外会場) / 6号館「集いのスペース」(屋内会場)

雪がいつはいる幸畑ヒルズは
 魅力がいつばい!

主な催し物

雪すべり台 雪上ゲーム大会 雪像 ミニかまくら ゆめあかり灯籠
 昔の冬あそび体験 (ずぐり回し、福笑いほか)
 温かい飲み物&食べ物コーナー その他イベント盛りだくさん!

主催: 幸畑ヒルズスノーフェスティバル実行委員会
 共催: 幸畑団地地区まちづくり協議会、幸畑ヒルズインフォメーション、青森大学
 後援: 幸畑団地地区社会福祉協議会、青森銀行幸畑出張所、コンビニエンスストア、美容室アトリエ・ハリキマ
 花のあさひ 株式会社 幸畑店 / 有: ランドマーク計画、幸畑保育園、株式会社、秋元種肉店
 屋外介護福祉事業所もみじ、幸畑ヒルズコース、幸畑舞台実行委員会、マックスバリュ幸畑店

《主な催し物》

- ・雪すべり台
- ・雪上ゲーム大会
- ・雪玉ストラックアウト
- ・雪像
- ・ミニかまくら
- ・ゆめあかり灯籠
- ・昔の冬あそび体験 (ずぐり回し、福笑いほか)
- ・温かい飲み物&食べ物コーナー 等々

☆屋外イベント

イベント	開催時間	内容
リアル雪中行軍 <small>ルート 青森大学～八甲田神社 ～八甲田山麓中行堂遊覧資料館～青森大学</small>	10:00～12:30	参加者がそれぞれスノーシューや歩スキーなどを着用してスノーウォークをするよ!
雪上ゲームコーナー <small>場所:中庭 (※雨天の場合、場所の変更有り)</small>	9:00～16:00	津軽の昔あそび「すくり回し」体験コーナーや「風船割りゲーム大会」、「ストラックアウト」コーナーなどを開催します!
雪の滑り台 <small>場所:中庭</small>	9:00～16:00	雪斜面をエアチューブで滑って遊ぼう。
ミニ雪灯籠 & ゆめあかり灯籠 <small>場所:中庭、駐車場</small>	16:00～19:00	暗くなったら、「ゆめあかり灯籠」や「ミニかまくら灯籠」にロウソクを灯すよ。
花火あそび大会 <small>※雨天中の場合中止 場所:中庭</small>	16:00～19:00	冬に楽しむ冬花火あそび。でも、寒いから火が付かないこともあるよ。

☆屋内イベント

イベント	開催時間	内容
幸田ヒルズイノベーション ヨガ体験会 <small>幸田ヒルズイノベーション ① ヨガマット(または、席に敷いてもいいタオル等) ② 動きやすい服装(ジャージ等) ③ 飲み水、お水 もご用意ください。</small> 場所:642号室	午前の部 10:30～11:30 午後の部 14:30～15:30	国際ヨガインストラクターによるヨガ体験会です。
ほっと!ひと休み コーナー <small>場所:632号室</small>	ドリンクの提供 9:00～16:00 食べ物の提供 11:30～16:00	ドリンクメニュー <small>※「甘酒」はアルコール分が少なくなりますので、飲酒後の運転は お控えください。</small> ● 本醸造「幸徳」の甘酒(20歳以上) ● 田酒の甘酒(20歳以上) ● ココア ● 紅茶 ● カフェ ● コーヒー ● コーンスープ ● お茶 食べ物メニュー(数量限定) ● 生姜味噌おでん ● ホットケーキ ● 鶏から揚げ
おもしろ ワークショップ <small>場所:622号室</small>	9:00～16:00	① バスボム作り...1回 ¥500 ② オリジナル缶「ハッパ」作り...1回 ¥300 ③ ビーズプレスレット作り...1回 ¥300 ④ チョコのカチャカチャ...1回 ¥50 ⑤ おもしろ福笑い...無料

青森市まちなかフィールドスタディ支援事業 「めざせ! 鍋横綱コンテスト まちなか巡業」

平成 28 年 2 月 7 日 (日) 青森大学沼田チームのメンバーが、商店街の活性化と冬季の誘客を目的とした鍋コンテストを実施いたしました。

当日は悪天候にもかかわらず、約 500 人の方々にご来場いただきました。関係者一同、厚く御礼申し上げます。



また、本イベントを開催するに当たり、多くの方々のご支援を頂戴いたしました。この場をお借りして御礼申し上げます。なお、当日の様子は、青森ケーブルテレビ「市民チャンネル」で2月19日まで放送されました。放送時間帯は、12時、15時、17時、22時の4回でした。

青森山田高校で特別授業「プログラミングへの誘い」

2月8日、9日及び15日、青森大学ソフトウェア情報学部の教員が青森山田高校を訪問し、情報処理科2年生のクラスでプログラミングをテーマに特別授業を行いました。



ソフトウェア情報学部では青森山田高校との連携事業として毎年2回、情報処理科の1,2年生のクラスを対象に大学での講義や研究を体験する特別授業を行っています。

昨年9月の一回目の大学での特別授業では、ソフトウェア情報学部でプログラミング教育を研究している学生のチームが主体となって、ビジュアルな開発環境を用いた「スクラッチによるプログラミング入門講座」を高校生向けに実施しました。

二回目の今回は、大学の教員が高校を訪問して拡大版の特別授業を実施しました。大学生による入門講座を引き継いで、プログラミングの原理や基本的な仕組み、プログラムを学ぶことの重要性や意義、さらに最新のプログラミング・パラダイムのお話などを、開発環境のスクラッチを使って実際にプログラムを作って動かしながら紹介しました。



盛りだくさんで、かつ、高校生向けには少し難しい内容がある授業を大学の講義スタイルで実施しましたが、情報処理科の生徒の皆さんは、授業サポートのソフトウェア情報学部の学生にも聞きながら、その後の実習もスムーズにこなしてくれました。

この授業を通して青森山田高校情報処理科の皆さんがプログラミングに興味を持ち、情報についてもっと学びたい、将来の進路として情報の分野を目指したいとの意欲を強めたのではないのでしょうか。

今回の授業では現代のプログラミングの世界を進化させた3人の巨人たちの話も紹介しましたが、これから情報分野に進む高校生の皆さんの中から、未来のプログラミングの世界を進化させるような活躍

をしてくれる人が出てくることを期待しています。

青森大学ソフトウェア情報学部は、急速に進展する情報社会の先端を切り開く教育研究を充実させていきます。

第3回青森県地域フォーラムが開催されました

平成28年2月20日(土)、青森市中央市民センター講堂において、第3回青森地域フォーラム(～まちと自然がつむぐ未来～)が開催されました。

このフォーラムは、青森大学と青森市、平内町及び関連団体等が連携して行っている事業の成果を報告し、今後の展望などについて議論を深めるために行っているものです。

当日は鹿内博青森市長、船橋茂久平内町長のご挨拶を賜り、本学の教育研究にわたる幅広い様々な地域貢献活動に関する報告と活発な議論が行われました。

平内プロジェクト、幸畑プロジェクトなどの活動のほか、青森学術文化財団の助成による研究活動として、「陸奥湾を回遊するイルカの生態」「東北・北海道新幹線の行方」「本県光学産業における現状と課題」などの興味深く、また、将来の展望を示唆する、いくつかの研究結果が発表されました。





本学は、「地域とともに生きる大学」として、引き続き、地域社会の活性化の拠点となるよう、教育研究に関わる連携事業を推進してまいります。

散歩プログラムを開発：課題を横断的に解決するために

社会学部・工藤雅世研究室（観光学・文化遺産研究）は、「幸福な地域をつくる」ことを大目的に、地域の課題解決に向け、青森市を事例とした3つの散歩プログラム（URLは下記）を開発しました。

下の写真は、散歩道のスポットの1つです。



同開発は、青森市観光課との連携から始まり、現在は、同市交流推進課と連携しています。青森県、及び青森大学が立地する青森市には現在、地域を経営・マネジメントする上で、様々な課題が

存在します。例えば、青森県は日本一の短命県。平均寿命が男女とも、全国 47 位です（2013.2 厚生労働省公表）。人口減少、中心商店街の衰退傾向も大きな課題です。

そこで、工藤研究室では、「健康増進・維持」「観光振興」「中心商店街活性」という、一見異なる分野をつなげ、地域の課題を横断的に解決する方策を、ヘルス・ツーリズム（心と体の健康増進・維持、病気予防のための観光）に見出しました。

「散歩プログラム」は、その具体的手法です。「健康」「観光」「中心商店街」の3つをホリスティック（全体的）に捉えました。

健康増進・維持、観光振興、中心商店街活性、それぞれのための取組みを独立して行って完結するのでは、もったいない、3つを接続した方が「幸福な地域」に近づける、「良いまち」をつくることのできる、そう考えました。

散歩プログラム開発の主体となったのは学生たちです。フィールド調査（下写真）をし、観光学・文化遺産研究を始め、マーケティング論・社会学・地域経済学など、複数の学問領域の知見を踏まえ、調査結果を分析しました。現在の時代・社会の状況・動向も視野に入れ、開発しました。



ヘルス・ツーリズムとして採用した療養は、①運動療法、②タラソテラピー（海洋療法）、③食事療法

の3つ。科学的根拠が確認済みのもの・仮説検証が進んでいるものを採用しました。

「**運動療法**」は、歩くことが、心・精神・体に多様な効能を持つ点に着目したものです。

「**タラソテラピー**」は、青森市の魅力「海のある街」に注目したもの。同市は人口約 30 万人の都市な

のに(?)、繁華街から徒歩5分の場所に本州北端の海が存在します。汚染されていない清(すが)しい風、海の成分を含む大気に触れるなどの要素を採り入れました。

「**食事療法**」は、「あおもり食命人」に登録された方の料理をいただくこと。「あおもり食命人」とは、「新鮮で安全・安心な旬の県産食材を活かした健康的な食事(=いのちを支える食)をつくる人」(青森県)のことで、青森県が健康政策の一環として育成しています。

青森市の中心商店街の特性、散歩そのものの特性も、健康に働きかけます。

同市の中心商店街は、人で混雑していない、ヒューマンスケールの街です。パーソナル・スペース(人に侵入されたくない、自分を囲む卵形のスペース)が確保されるため、ゆとり・心地良さが感じられま

す。散歩は、心自由に、伸びやかに、心を遊ばせながら移動する行為。その心髄は、莊子（紀元前4世紀ごろ）の「逍遙遊（しょうようゆう）」に遡ることができそうです。歩く度に風景が流れ、心や精神は緩やかに。目にするもの、耳にするもの、匂い、触って感じることで、不思議に思ったり、驚いたり……脳も刺激されます。システム開発は、本学ソフトウェア情報学部の学生が担当しました。

本学内における文理融合プロジェクトです。

ヘルス・ツーリズム振興に関する、日本で唯一の公的組織「(特)日本ヘルスツーリズム振興機構」のメールマガジンにおいて、同プログラムが紹介され、「青森へ行って散歩したくなった」などの評価をいただいています。

以下に、同プログラムのコンセプト、ターゲット、スポット数、ホームページ等の URL をご紹介します。

1) 「太宰治ゆかりの地と海辺の散歩道」 *コンテンツ・ツーリズムの要素も採用。

①コンセプト : 土地の記憶をたどる旅 + 「心・意志を決める」旅。

* 1 太宰治が、旧制・青森中学校時代の青森市在住時(1923～1927) に、作家を志したことに因む。

* 2 太宰治ゆかりの場所を体感し、太宰に影響を与えたかもしれない「場所の力」を探る旅 (コンテンツ・ツーリズム)。

* 下写真 : ホームページのトップページ。

②ターゲット : 文学部の学生+太宰治のファン。

③スポット数 : 全 20 スポット・長短 4 コース。

④URL : <http://nodatsu.github.io/dazai/>



2) 「青森アドベンチャー」

①コンセプト : 冒険→未知のもの・発見を楽しむ。

* 下写真はスポット例 : 人口約 30 万人の街の真ん中にリンゴの街路樹。

②ターゲット : 主 青森県外大学の散歩サークル・旅サークルの学生。

従 青森市民・県民。

③スポット数 : a. お勧めコース : 13 スポット。

b. 6 ジャンル (フーズ、スイーツ、喫茶だけではなく・・・、雪国仕様、

青森仕様ストリート・ファニチャー、楽しい看板) 全 17 スポットを用意。

* 上記から自由に選び、組み合わせて、心のままに散歩していただきます。

④URL : <https://machiteku.herokuapp.com/home/index>



3) 「観（み）るテツ@本州北端の都市」

①コンセプト : 本州北端の都市ゆえの鉄道&鉄道関連文化遺産を満喫。

* 下写真はスポット例 : 青森駅5・6番線ホームに残る、青函連絡船
(1988.3.13で廃止) 棧橋方向を示す文字。

②ターゲット : 鉄道・機械が好きな方(「鉄ちゃん」など)。

③スポット数 : 4スポット。

④URL : <https://machiteku.herokuapp.com/home/index> * 上記2) ③と同じ。



今後も工藤研究室では、散歩が持つ効能・価値を重視していきます。

「『思わず歩いてしまう街』『歩くことが楽しい街』、そのことが健康増進・維持につながる」、そんな考え方の「まちづくり」政策、都市政策を、日本一の短命県である青森県の自治体が推進することをも願いつつ、学生と共に散歩プログラムを開発していきます。

すこやか健康セミナーの終了

3月6日（日）、青森市新町の旧村上薬局にて、すこやか健康セミナーを開催しました。

当日は、小雨が降る天候の中、約50名に來場していただき、大変ありがとうございました。

本学学生団体である青森大学薬学部 すこやか成分研究会（代表：村上浩一）が主催しました。本活動は、青森市中心市街地活性化協議会 地域貢献プロジェクト募集事業「青森市まちなかフィールドスタディ支援事業」に採択され、助成をいただきました。



フィールドスタディ報告会

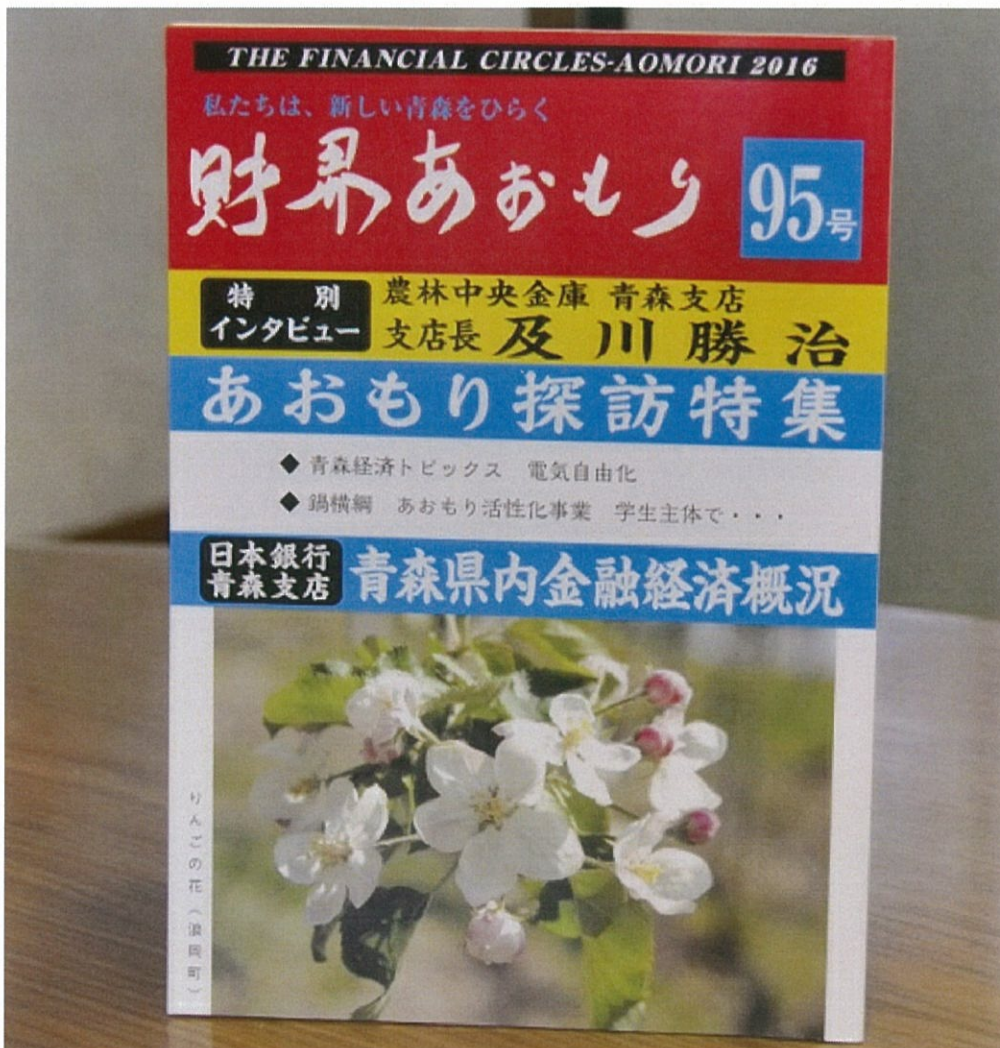
3月12日（土）、新町キューブで行われた「青森市フィールドスタディ支援事業報告会」に学生団体である「青森大学すこやか成分研究会」が参加しました。

3月6日（日）に実施した「すこやか健康セミナー」の成果について、すこやか成分研究会代表の村上浩一君が報告を行いました。



『財界 あおもり』(95号)で「鍋横綱コンテスト」の様子が紹介されました

2月7日に沼田チーム(三橋真理、村元美穂、三上阜誠、阿部康平)が中心となって開催した「鍋横綱コンテスト まちなか巡業」の様子を紹介いただきました。



記事では、当日のにぎわいをはじめ、沼田チームがコンテストを企画した経緯なども紹介されています。是非、ご一読ください。

青森山田高校との高大連携による特別授業を開始しました

青森山田高校情報処理科2年生と3年生を対象に、ソフトウェア情報学部の教員による特別授業を新しい形で実施しています。



2年生向け初回実施(4/12)の様子

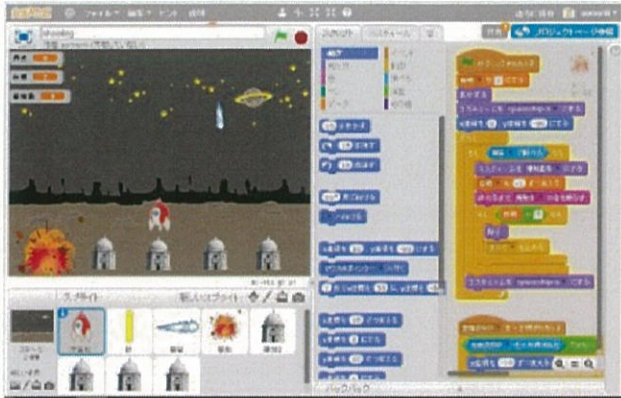
これまでソフトウェア情報学部では、青森山田高校との連携事業として情報処理科の1、2年生のクラスを対象に毎年2回ずつ、大学での講義や研究を体験する特別授業を行ってきました。今年度の特別授業は、この取組みを発展させ、ソフトウェア情報学部の教員が毎週高校に赴き、情報処理科の2、3年生向けに定期的に授業を実施しています。



3年生向け初回実施(4/20)の様子

特別授業は「ソフトウェア情報学への誘い」をテーマに高校の課題研究の時間（2年生は火曜の3,4時間目、3年生は水曜の3,4時間目）に実施しています。授業はソフトウェア情報学部の教員が交代で担当し、大学での講義の分かりやすい体験や、大学の研究室で取り組んでいる最先端の研究の紹介を行う予定です。

その中で、2つの集中実施シリーズとして、ビジュアルなプログラミング環境「スクラッチ」を使ってゲームを作りながらプログラミングを学ぶソフトウェア開発実習と、実習用ロボット「レゴ・マインドストーム」を使って実際にロボットを動かしながら学ぶロボット制御実習を予定しています。



プログラミング環境「スクラッチ」



実習用ロボット「レゴ・マインドストーム」

新しい形の特別授業により、情報処理科の皆さんが、近年急速に進展しているソフトウェア情報学に興味を持ち、将来の進路として情報の分野を選択したいとの気持ちを確実にしてくれることを期待しています。

平成 27 年度 青森大学地域貢献賞表彰式

平成 27 年度の地域貢献賞の表彰式が平成 28 年 4 月 27 日（水）、第 7 会議室で開かれました。最優秀賞に「新体操を活かした地域貢献活動」新体操部など、8 団体に崎谷康文学長から、賞状が手渡されました。

最優秀賞：「新体操を活かした地域貢献活動」新体操部

優秀賞：「だまされないための寸劇付き派遣講座」学生ボランティア集団 NFNC

優秀賞：「大学生観光まちづくりコンテスト」沼田ゼミナール。

奨励賞：「一般公開講座：日本認知症学会サテライトプログラム」大上研究室

奨励賞：「地域の認知症啓発活動・青森オレンジ文化祭」大上研究室

奨励賞：「大学生観光まちづくりコンテスト 2015 青森ステージ参加」チーム FUN+

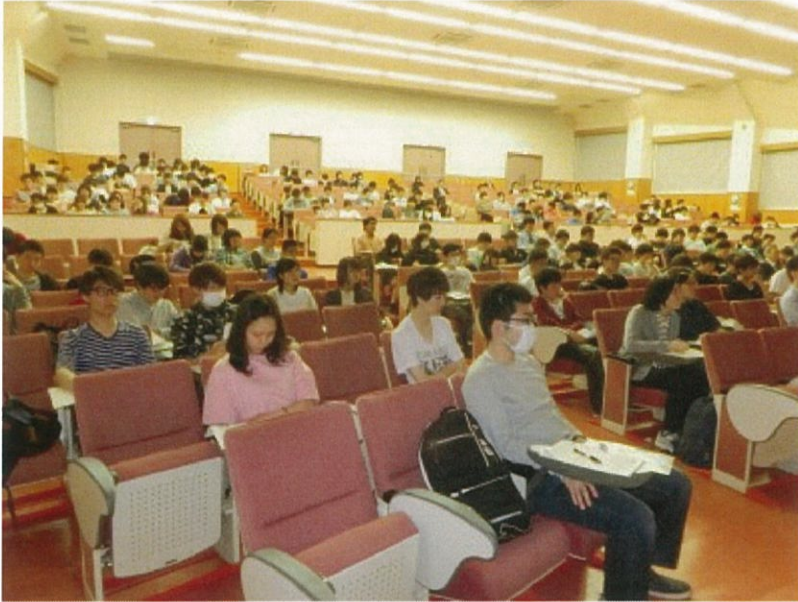
奨励賞：「大学生観光まちづくりコンテスト 2015 青森ステージ参加」西目屋村活性化プロジェクト

奨励賞：「大学生観光まちづくりコンテスト参加プラン」榎田チーム



第7回学びの森市民セミナーを開催しました。

第7回学びの森市民セミナーが5月28日（土）に本学記念ホールで開催されました。本セミナーは青森明の星短期大学との共催で、毎年春と秋の2回お互いのキャンパスで交互に開催し相互のカリキュラムの充実と、地域住民の方々の生涯教育に貢献することを目的に実施しております。



今回は日本薬科大学教授の船山信次先生に「毒と薬と人間 -薬毒同源-」との演題でご講演をいただきました。先生には、毒と薬が表裏一体であることを分かりやすくお話していただきました。



先生はこの分野で多くの啓蒙書・専門書・辞典などを執筆されており、さらにテレビ・ラジオ番組にも毒をテーマに多数出演されております。また、雑誌「新潮45」でビートたけしさんと誌上対談もされるなど、大変幅広い活動をされています。昨年度のノーベル生理学・医学賞を受賞された大村智先生とは北里研究所時代に多数の論文を共同で執筆され、現在でも師弟の絆を大切にされているとのこと。

今回は、本学学生、青森明の星短期大学の学生・教員、地域住民、本学教職員など全体で230名余の参加のもと、大変盛大なセミナーとなりました。

第8回学びの森セミナーは青森明の星短期大学で10月29日（土）に開催予定です。

青森市と避難所施設使用に関する協定を締結しました

5月30日（月）、青森市と「災害時における避難所等としての施設使用に関する協定」を締結しました。



これは、災害時に本学第二体育館（正徳館）を避難所として運用できるよう、運営母体である学校法人青森山田学園と協定を結んだもので、今回は他に、青森中央学院大学を運営する青森田中学園も同時に青森市と協定を締結しました。

本学からは、岡島理事長の代理として崎谷学長と阿部教務・学生課長（防災士）が締結式に出席しました。市からの趣旨説明の後、鹿内青森市長と崎谷学長とで調印を交わし、無事に締結しました。



写真撮影のあと、鹿内市長との懇談の中で、崎谷学長は「今回の協定締結を契機に、学生への防災教育の推進、教職員の防災意識の向上を図って、幸畑地区の皆さんとも連携を強めていきたい」と語りました。

青森・陸奥湾 イルカ情報サイト 開設

青森大学清川研究室では、学生とともに漁船から陸奥湾内のイルカの生態について解析を試み、気象現象の影響やエサのイワシとの関係を明らかにしてきました。



昨年はじめて陸奥湾を回遊するイルカの調査を実施し、予想を上回る数のイルカが長期間湾内に留まっていることがわかりました。そこで、これらのイルカを気軽にしかも確実に見られるよう情報ページを作成したいと考え、フェリー会社2社よりイルカ発見情報を提供いただくことになり、ホームページ「青森・陸奥湾 イルカ情報」を作成しました。ページ内の情報を参考に、多くの観光客が陸奥湾を中心とした青函地域に足を運び、両地域の活性化に貢献したいと願っています。

青森・陸奥湾 イルカ情報

<http://www.dolphin.aomori.jp/>

<https://www.facebook.com/dolphin.aomori/>



○これまで紹介されたメディア一覧

- 5月13日 東奥日報 ホームページ開設
- 5月15日 東奥日報 イルカ調査
- 5月17日 読売新聞青森版 ホームページ開設&イルカ調査
- 5月18日 RAB ニュースレーダー 今年のイルカ回遊行動の解説
- 5月20日 ATV わっち!! 浅虫水族館と共同でイルカ調査
- 5月23日 日本テレビ Oha!4ほか 今年のイルカ回遊行動の解説
- 5月23日 北海道新聞夕刊 ホームページ開設&イルカ調査
- 5月28日 河北新報 ホームページ開設&イルカ調査
- 5月29日 産経新聞 Web版 ホームページ開設&イルカ調査
- 5月31日 毎日新聞東京版夕刊・中部版夕刊 ホームページ開設&イルカ調査

- 6月1日 毎日新聞地方版 ホームページ開設&イルカ調査
- 6月1日 産経新聞青森版 ホームページ開設&イルカ調査
- 6月9日 読売新聞全国版夕刊 ホームページ開設&イルカ調査

青森県未来の企業家育成講演会 開催

青森県商工労働部地域産業課からのご支援をいただき、平成 28 年度青森県未来の企業家育成講演会を、2016年6月23日（木）に開催しました。

本講演会は、青森県内の中・高・大学生に創業・起業への興味・関心をもってもらうことを目的に、県内起業家や本県出身起業家等を講師として派遣し、創業体験に基づく講演会を実施するという青森県の取組みによるものです。

講演会には本学の学生も参加し、今後の教育活動並びに地域貢献活動の進展の一助となりました。



■日時 2016年6月23日（木）

13：00～13：10 本講演会の趣旨とご挨拶（青森県商工労働部地域産業課）

13：10～14：00 講演会

■会場 青森大学3号館350教室

■講師および講演テーマ

講師 西谷 雷佐 氏 （たびすけ合同会社西谷代表。弘前大学特任准教授）

講演テーマ 「あるもの活かし」で地域力発信！～今求められるのは地域を編む力～

特定非営利活動法人青森県消費者協会との連携協定

平成28年6月17日に、特定非営利活動法人青森県消費者協会（大塚和則理事長）との間で、連携に関する協定を締結しました。



青森大学と青森県消費者協会とは、教員や学生寸劇チームを「だまされないため」の講座への派遣や新入生が消費者としての知識を得るための講座の実施などを通じて関係を深めてきました。今後は、今までの活動を充実させるとともに、青森県消費者大会への学生の参画、消費生活に係わる専門的人材育成のための消費者教育の導入、消費者フォーラムへの出張講義などに取り組んでいく予定です。

学習支援センター

学習支援センターでは、平成27年度は以下の7事業に取り組んだ。また、平成28年度は5月に開いた運営委員会で従来の事業を一部集約して4事業に取りまとめて確定し、センター員が分担して活動に取り組んでいる。センター員一人ひとり、「学生中心の大学」の機能の充実に関わる諸活動に主体的に携わっている。平成28年度の事業集約に際しては、センター員が行っている諸活動の連携を図る役割を本センターが担っていくことを事業方針に掲げた。

【平成27年度】

- (a) 学習相談窓口の設置
- (b) IRの推進
- (c) 基礎演習向け「共通テキスト」の改訂
- (d) ミニセミナーの実施
- (e) 熟議・ワークショップの実施
- (f) 教務委員会・FD委員会・学生委員会等との共同事業
- (g) 「集いのスペース」の運営

【平成28年度】

- (a) 学習相談窓口の設置、学生支援の実態調査と今後の体制検討
- (b) IRの推進
- (c) 学内他組織との連携

- ◇ 地域活動（制度整備、学生参画の推進）
- ◇ 資格取得支援
- ◇ 就職・進学支援
- ◇ 留学生支援、国際化の推進
- ◇ ITによる授業支援
- ◇ 図書館などの利活用推進

(d) ミニセミナーの実施

【学習相談窓口の開設】

学習相談窓口は、平成27年度は2回の開設にとどまり、この中で、1件の相談が行われた。平成28年度は、学習相談の機能の重要性を踏まえ、新たな方針に基づき、学生委員会で実施してきた「カウンセリング」と連携し、5月以降に毎週1～2回ずつ相談を受け付けている。

平成28年度は、当該窓口の開設以外のものを含む、学内の学生支援の実態調査を行う計画である。

【IRの推進】

1月に平成27年度後期の「学修時間・学修行動調査」を実施し、回答の集計・分析作業を行っている。また、4月に学長補佐室と共同で「18歳選挙権に関するアンケート」を実施した。

【共通テキスト「必携 学びの道しるべ」を改訂】

平成26年3月に発行し、平成26年度より基礎スタンダードオムニバス科目を中心に利用してきた「必携 学びの道しるべ」に関して、3月に第二版を発行した。初版を発行してから2年が経ち、地域志向科目である「地域貢献基礎演習」や「地域貢献演習」が教育課程に新たに加わったなどの変化に対応するのが、主な理由である。平成28年度開始時に新入生全員に配布し、授業などで活用している。第二版の作成に当たっては、初版の執筆を分担された方々をはじめとして、多くの教員・職員の皆様のご協力をいただいた。

【ちょこボラ Cafe の実施】

地域貢献センターと共同で、ボランティア活動に携わる学内外の方々を講師として、「ちょこボラCafe」を3月までほぼ毎月実施した。

国際教育センター

留学生交流会

平成28年1月9日（土）、台湾やモンゴルからの留学生や日本人学生、教職員が20名ほど集まり、留学生交流会が行われました。今回は、各国のお正月料理や家庭料理を囲んで新年を祝った後、校内のゆるやかな坂を利用してスキーにチャレンジしました。日本のおせち料理やお雑煮、ソリヤスキーなど、留学生にとっては人生初の体験ばかりで、終始笑い声が飛び交う楽しいひと時でした。



モンゴルの学生たちは、旧正月に食べるポーズ（蒸し餃子）を作りました。力強く小麦粉を練って餃子の皮を作り、手際よく肉を包み込み、次々と蒸していきます。台湾の学生たちは、生の青トウガラシや緑豆など母国でよく使われる食材や調味料が入手できなったり、日本のトマトの味が母国の味と違って味付けに戸惑ったりしながら、普段包丁を持たない料理下手な学生も一生懸命に取り組みました。日本人の学生たちもお手伝いをしながら、留学生から作り方や各国のお正月の過ごし方などを教わっていました



後片付けが終わったあとは、寒さに負けずみんなで校庭に出て雪遊び。青森に来て雪を初めて見た留学生たちは、大学でスキーの道具を借りて人生初のスキーに挑戦。軽快なリズムで滑り降りる雪国育ちの日本人学生に滑り方を教えてもらいながら、暗くなるまで夢中で練習しました。何度も転びながらもお互い励まし合い、あっという間にコツを覚え、3、4人で連なって滑り降りることもできるようになりました。一日中たっぷり遊んで、さすがに疲れた様子でしたが、留学生にとっては初体験づくしの思い出に残る交流会となりました。



青森大学オープンカレッジ

平成28年度市民大学講座開講式及び第1講

4月15日（金）午前10時10分から、本学622教室で平成28年度市民大学講座の開講式と第1講が開かれました。今年度は45人の一般社会人の受講生を迎えて実施。この日は、開講式で堀端孝俊所長が主催者として歓迎の挨拶を述べ、新入受講生と教職員を紹介。続いて、第1講では平井卓本学非常勤講師が「終戦直後の民主主義教育」と題して講義をしました。。



「人工知能の考え方ー最近の話題を巡って」市民大学講座第2講

5月13日（金）午前10時から、青森市駅前アウガ5階研修室で、市民大学講座第2講が開かれ、受講生38人が参加しました。「人工知能の考え方ー最近の話題を巡って」と題して、堀端孝俊オープンカレッジ所長が講義。人工知能60年の歴史を話し、コンピュータ（アルファ碁）とトップ棋士の勝敗のエピソードを伝えました。



日常生活で褒めることの大切さを学ぶ～市民大学講座第3講

「こころの健康ーストレスとコミュニケーションを考える」と題して、5月20日（金）午前10時から、青森市駅前アウガ5階研修室で、市民大学講座第3講が開かれました。受講生40人が参加し、講師の船木昭夫オープンカレッジ副所長から、ストレスをためない1つの手段として、日常生活で褒めることの大切さを学びました。



日本の天(てん)妃(び)と台湾の媽(ま)祖(そ)～市民大学講座第4講

市民大学講座第4講が6月3日、青森駅前アウガ5階研修室で開かれました。この日の受講者は42人で、講師は江川静英オープンカレッジ副所長が務め、「日本の天妃と台湾の媽祖」について話しました。「媽祖（天妃の別名）は、海上の女神として信仰され、特に東南アジアや日本に播。沖縄や長崎を経て北上し、青森県大間町にも伝わっている」と説明。信仰した結果、奇跡の体験が数多くあり、台湾ではお祭りも盛んに行われていることを紹介しました。

また、台湾出身の江川副所長は、先頃帰国し、女性初の台湾総統なった蔡英文氏の就任式に出席したエピソードを伝え、受講生の興味をひいていた。



広岡浅子と「幕末の豪商達の軌跡」～市民大学講座第5講

市民大学講座第5講は6月10日、青森駅前アウガ5階研修室で開かれ、幕末から明治・大正を駆け抜けたNHK連続TV小説「あさが来た」のモデル広岡浅子と江戸時代と明治の金融制度について講義がありました。講義終了後茶話会も開かれ、受講者同士なごやかに交流を深めていた。



「アクティブ・リスニング&ロジカル・シンキング」～市民大学講座第6講

「効果的コミュニケーションと傾聴を学ぶ」市民大学講座第6講は6月24日、青森駅前アウガ5階研修室で開かれた。この日は、受講生38人が参加し、講師の石塚ゆかり本学経営学部准教授から、よりよいコミュニケーションの仕方や聴き方を学んだ。聴く心構えとして、自分をフラットにしてから聴く。相手の話を尊重する。思いやりを持つーなどのアドバイスを受けていた。



青森大学総合研究所

[総合研究所紀要の発行]

青森大学付属総合研究所紀要 (Journal of Aomori University Multidisciplinary Research Institute)、第17巻1号 (平成27年9月31日付) が、下記の内容で発行された。

1. 澁谷 泰秀・渡部 諭・吉村 治正・小久保 温・柏谷 至・佐々木 てる・中村和生・木原博, 「ウェブ調査と郵送調査の直接比較 — 同一サンプルを用いた回答者特性及び自己効力得点の比較 —」, pp.1-22
2. 小久保 温・柏谷 至・石橋 修・榎引 素夫・坂井 雄介・佐々木 てる・田中 志子, 「エコマネー Webプラットフォームのドメイン・モデルの設計」, pp.23-31
3. 榎引 素夫, 「北信越地域における北陸新幹線開業直後の変化と課題」, pp.32-44

青森大学附属総合研究所紀要 (Journal of Aomori University Multidisciplinary Research Institute)、第 17 巻 2 号 (平成 28 年 3 月 31 日付) が、下記の内容で発行された。

1. 澁谷 泰秀・渡部 諭・吉村 治正・小久保 温、「肯定的項目と否定的項目の混在が尺度に及ぼす影響 : 項目反応理論による社会調査データの分析」, pp.1-11
2. 清川 繁人、「陸奥湾を回遊するイルカの行動に関する研究」, pp.12-25
3. 櫛引 素夫、「コンパクトシティ政策と郊外の空き家問題 -青森市の事例からの論点整理-」, pp.26-42

経 営 学 部

[外部研究助成・事業助成] 平成 28 年 1 月～

堀籠 崇 文部科学省科学研究費助成事業 (科研費)

④ 科研費以外の研究

(研究代表者) 堀籠 崇 准教授 (研究分担者) 松本 大吾 講師

研究テーマ: 青森県における医療ツーリズムを通じた地域活性化の可能性
に関する研究事業

補助金額: 548 千円

助成区分・期間: 青森学術文化振興財団

岩淵 護 (研究代表者) 岩淵 護

研究テーマ: 取引費用モデルを活用したクラスターネットワーク形成と地域活性化に関する実証的研究

補助金額: 4550 千円

助成区分・平成 27 年度 基盤研究(C)

[著書、論文、研究ノート、評論・書評、翻訳、寄稿、調査報告書など] 平成 28 年 1 月～

井上 隆 共著『人口減少下における地域経済の現状と今後の対応策』、「序 - 地域経済活性化に向けた調査・研究の視点と方法」分担執筆、編集・発行: 青森地域経済活性化懇談会・青森商工会議所、2016 年 3 月。[平成 27 年度 公益財団法人 青森学術文化振興財団助成事業]

沼田 郷 「青森県および北東北地域における光学・精密機械産業の現状と課題」2016 年 3 月 (平成 27 年度 青森学術文化振興財団研究助成事業 成果論文)。

佐々木てる、沼田郷監修『学びの道しるべ 第 2 版』発行。

[平成 27 年度経営学部経営学科学生研究発表大会]

平成 28 年 1 月 25 日 (月)、平成 27 年度経営学部経営学科学生研究発表大会が、6 号館メモリアルホールにおいて開催され、4 年生が卒業論文について発表し、その後、活発な質疑応答が行われた。発表後、崎谷学長を審査委員長とする 3 名の審査委員による厳正な審査の結果、最優秀賞以下各賞が選出さ

れた。

- ・最優秀賞

経 2406 三橋真理（沼田ゼミ）「公共交通の再整備と地域再生～青森市の事例～」

- ・優秀賞

経 24028 篠塚光（岩淵ゼミ）「日本の警察組織～女性警察官が活躍するためには～」

- ・佳作

経 24001 青屋爵（櫛田ゼミ）「アマからプロへ～新体操のプロ化～」

《特別賞》

- ・パフォーマンス賞

経 24050 成田正弥（五十嵐ゼミ）「寝具の選び方」

経 24061 三橋真理（沼田ゼミ）「公共交通の再整備と地域再生～青森市の事例～」

- ・プレゼンテーション賞

経 24037 須藤修平（中村ゼミ）「スバルブランドに関する一考察」

経 24038 関根一生（中村ゼミ）「アシックスブランドに関する一考察」

- ・地域貢献賞

経 24028 篠塚光（岩淵ゼミ）「日本の警察組織～女性警察官が活躍するためには～」

経 24061 三橋真理（沼田ゼミ）「公共交通の再整備と地域再生～青森市の事例～」

（堀籠崇 准教授）

[経営学部教務委員会の取組み]

平成 29 年度より、従来の経営学部を発展的に改組する形で「総合経営学部」と名称が変更されるが、本学経営学部が有する良き伝統は活かしつつ、教育内容の一層の発展を目指して改革の歩みを進めている。近年本学経営学部では、簿記会計学関係資格や、情報工学系の国家資格の試験免除や MOS 試験の学内受験などの資格関係科目の充実が図られていることに加え、スポーツビジネスやスポーツマネジメントといった、他大学にはないユニークなカリキュラムを活かす形でのカリキュラム改革を進めている。とりわけ簿記会計学教育に関しては、担当教員の松本が主導して、高大連携の取組みとしても成果を上げつつある。

本年度の経営学部教務委員会における事業計画としては、(1) 履修指導・出欠管理、(2) 教育課程改革を中心に教育の質向上を目指す。(1) については学生の入学初年時より、きめの細かい指導と教員・職員間の情報共有を進めるために、ゼミナールを通じた出席指導と、出欠席・遅刻などの情報リスト化、(2) については平成 30 年度以降を視野に入れたカリキュラムのより一層の体系化、FD 委員会と連動した授業点検、履修上限制度の再検討、GPA 活用方法・単位付与の公平性の確保、成績評価基準に関する検討を進めていきたい。

あわせて、平成 27 年度よりスタートし本格的に軌道に乗り始めた、PBL、アクティブ・ラーニング形式の経営学部専門科目「プロジェクト演習」を中心として、大学内部のみならず、大学外部の団体等とも連携しながら、学生にとって魅力的・実践的かつ専門能力の伸長に資する経営学教育を展開していきたい。

（堀籠崇 准教授）

[経営学部スポーツ大会]

6月12日(水)3.4限目に経営学部スポーツ大会を開催。全20チームの参加を得、トーナメント方式のバレーボール競技を行った。入賞チームは1点を争う白熱したゲームが続き、どこが勝ってもおかしくない好ゲームを展開してくれた。予定された時間通りケガなく無事終了したことを報告します。

*結果・順位 優勝:榎田ゼミ1年、準優勝:岩淵ゼミ1年、3位:中村ゼミ3年

(赤坂道俊 教授)

[東日本学生新体操選手権大会]

5月13～15日、福島市国体記念体育館において第49回東日本学生新体操選手権大会が開催され、団体競技9年連続13度目の優勝を果たしました。個人競技においても永井直也(経3)が全種目制覇の個人総合優勝をし、佐久本(経2)が次いで準優勝を果たしました。

今後練習を積み重ねて、前人未到の15連覇に向け気を引き締めて取り組んでいきます!

<団体成績> 優勝:青森大、3位:青森大A、5位:青森大B

<個人総合成績> 優勝:永井直也(経3)、2位:佐久本歩夢(経2)、6位:左右木星斗(経3)、
7位:塩田裕亮(経3)、8位:持館将貴(経2)

[学会報告、学会活動など] 平成28年1月～

堀籠 崇 平成28年6月18日 2015年度第3回日本経営学会東北部会において江尻 行男氏(東北福祉大学)の報告「介護人材不足の問題」に関する司会兼コメンテーターを担当 於:東北福祉大学

[社会活動・地域貢献・講演など] 平成28年1月～

赤坂道俊

平成28年2月24日 平成27年度第二回農地中間管理事業評価委員会、於:ラ・プラス青い森。

平成28年2月25日 平成27年度青森独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会(会長)
於:青森職業能力開発促進センター。

平成28年3月8日 平成27年第7回度青森地方最低賃金審議会(会長)
於:青森合同庁舎4階会議室。

平成28年3月11日 総合評価落札方式審査委員会、於:青森合同庁舎2階労働基準部

平成28年6月22日 平成28年度青森独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会(会長)、
於:青森職業能力開発促進センター。

平成28年6月23日 平成28年度第一回農地中間管理事業評価委員会、於:ラ・プラス青い森。

井上 隆

平成28年1月15日 青森市都市整備部 緑の基本計画 改定懇談会(第3回)、委員長、沖館市民センター

平成28年1月15日 青森市戦略的中心市街地活性化事業補助金推薦確認書、作成・提出

平成28年1月15日 青森市中心市街地活性化協議会宛

平成28年1月18日 青森商工会議所 青森地域経済活性化懇談会学識者会議(第2回)、

座長、青森商工会議所

- 平成 28 年 2 月 10 日 青森地域経済活性化懇談会学識者会議（第 3 回）、座長、青森商工会議所
- 平成 28 年 1 月 15 日 青森市中心市街地活性化協議会、第 2 回運営委員会、副会長、商工会議所
- 平成 28 年 1 月 15 日 青森市都市整備部 第 2 回青森市総合都市交通対策協議会、会長、八甲田丸
- 平成 28 年 1 月 20 日 談話：‘青森県の貸し工場債権放棄’について、『東奥日報』
- 平成 28 年 1 月 23 日 青森市中心市街地活性化協議会、平成 27 年度第 2 回タウンマネージメント会議、副会長、パサージュ広場会議室
- 平成 28 年 1 月 28 日 講演：「函館酪農公社の移動販売車の社会的役割と機能」、NPO 法人ひろだいリサーチ 調査研究報告会、十和田市交流プラザ・タワーレ
関連記事：『東奥日報』3/12「震災時の牛乳流通検証し問題点指摘」
- 平成 28 年 3 月 4 日 「青森市まちなかフィールドスタディ支援事業補助金」『中心市街地で‘青森の食’発信事業』推薦確認書、作成・提出、青森市中心市街地活性化協議会宛
- 平成 28 年 3 月 7 日 国交省青森運輸支局・厚労省青森労働局共催、トラック輸送における取引環境・労働時間改善青森県協議会（第 3 回）、会長、県トラック協会研修センター
- 平成 28 年 3 月 9 日 青森地域経済活性化懇談会（第 3 回）、座長、ラ・プラス青い森
- 平成 28 年 3 月 12 日 青森市中心市街地活性化協議会、副会長、青森まちなかフィールドスタディ事業採択者報告会、新町キューブ
- 平成 28 年 3 月 17 日 （公益社団法人）青森県トラック協会 青森県貨物自動車運送適正化事業実施機関評議委員会（第 2 回）、委員長、青森県トラック協会研修センター
- 平成 28 年 4 月 28 日 青森商工会議所「中心市街地活性化に資するまちづくり会社のあり方」調査研究ワーキンググループ設立準備会、座長就任、青森商工会議所
- 平成 28 年 5 月 12 日 青森市中心市街地活性化協議会、第 1 回運営委員会、副会長、商工会議所
- 平成 28 年 5 月 20 日 青森商工会議所・中心市街地活性化に資するまちづくり会社のあり方・調査研究、ワーキンググループ検討会（第 1 回）、座長、青森商工会議所
- 平成 28 年 5 月 23 日 青森市新町商店街振興組合第 41 回通常総会・懇親会、
中活協副会長として来賓参加、ウェディングプラザアラスカ
- 平成 28 年 6 月 11 日 青森市中心市街地活性化協議会、平成 28 年度総会、副会長、青森商工会議所
- 平成 28 年 6 月 11 日 NPO 法人ひろだいリサーチ、拡大理事会、青森大学 633 教室
- 平成 28 年 6 月 13 日 「青森市まちなかフィールドスタディ支援事業補助金」推薦書、作成・送付、青森市中心市街地活性化協議会事務局宛
- 平成 28 年 6 月 17・18 日 まちづくり会社のあり方・調査研究ワーキンググループによる現地調査、座長、ヒアリング先：札幌大通りまちづくり(株)、ふらのまちづくり(株)
- 平成 28 年 6 月 25 日 中心市街地活性化に資するまちづくり会社のあり方・調査研究ワーキンググループ検討会（第 2 回）、座長、青森商工会議所
- 平成 28 年 6 月 25 日 NPO 法人ひろだいリサーチ年次総会、弘前大学大学院地域社会研究科

中田吉光

- 平成 28 年 1 月 23～24 日 新体操の舞台「BLUE VOL.4」、リンクステーションホール（青森市文化会館）において開催し 3500 人の集客を得た。

- 平成 28 年 1 月 27 日 青森市スポーツ奨励賞を受賞（ホテル青森）する。
- 平成 28 年 1 月 30～31 日 男子新体操全国合同合宿及び審判講習会東北会場（青森：国際卓球センター、宮城：ホワイトキューブ）2 会場総勢約 300 名の指導した。
- 平成 28 年 2 月 9 日 青森市スポーツ推進審議会（市役所柳川庁舎）に出席する。
- 平成 28 年 2 月 16 日 体育学会東北地区教員 F D 大会（東北大学仙台北キャンパス）に参加する。
- 平成 28 年 2 月 22 日 学生相談を考える会（弘前大学総合教育棟）に参加する。
- 平成 28 年 2 月 27 日 青森県体操協会理事会（社会教育センター）に出席する。
- 平成 28 年 2 月 28 日 学術講演会（仙台大・東北エレクトロンホール宮城）に参加する。
- 平成 28 年 3 月 12 日 全日本学生体操連盟及び関東・東北北海道学生体操連盟役員総会（岸記念体育館）に出席する。
- 平成 28 年 3 月 19～21 日 全国高等学校新体操選抜大会（長野市）において主任審判員を行う。
- 平成 28 年 3 月 26～27 日 北海道演技会（野幌総合運動公園体育館）を行う。
- 平成 28 年 3 月 31 日 NHK「ニュースシブ 5 時」に出演する。
- 平成 28 年 4 月 9 日 青森県体操協会総会（アラスカ会館）に出席する。
- 平成 28 年 4 月 23 日 沖館市民センターにおいて「元気あつぷる体操」を指導する。
- 平成 28 年 4 月 25 日 青森市立幸畑小学校 P T A 総会に役員として出席する。
- 平成 28 年 5 月 4 日 県内審判員に講習会を行う。
- 平成 28 年 5 月 31 日 青森市スポーツ推進審議会（市役所庁議室）に出席する。
- 平成 28 年 6 月 2 日 タイのテレビ局から青森の魅力として取材を受ける。
- 平成 28 年 6 月 3・4 日 青森県高校総体（八戸総合体育館）で審判長を務める。
- 平成 28 年 6 月 10～12 日 第 14 回全日本新体操ユースチャンピオンシップ・第 7 回男子新体操団体選手権大会（東京体育館）の上級審判員として参加した。

中村和彦

- 平成 28 年 3 月 「広報ひらない」（3 月号）掲載 p. 4
- 平成 28 年 4 月 「東奥日報」掲載（平成 28 年 4 月 1 日付）
- 平成 28 年 4 月 ボランティア演奏会 於：障害者支援施設 津麦園
- 平成 28 年 4 月 「青森県中小企業家同友会 第 19 回定時総会・講演会」 於：アベスト青森
- 平成 28 年 5 月 「平成 28 年度 起業家講演会」会議 於：青森県商工労働部・地域産業課
- 平成 28 年 6 月 平成 28 年度「パテント活用学生人材育成事業」（富士通株式会社 監修）キックオフ会 於：新町キューブ

沼田 郷

- 平成 28 年 4 月 甲田幼稚園 節分集会参加（準硬式野球部）（NHK あつぷるワイドにて放送）
- 平成 28 年 4 月 「めざせ！鍋横綱 まちなか巡業」開催 於：新町キューブ
「ATV 金曜マルシェ」、「NHK あつぷるワイド」、「青森ケーブルテレビ」にて放送
朝日新聞、読売新聞、東奥日報掲載
- 平成 28 年 4 月 第 3 回青森地域フォーラム 報告「中心商店街の活性化活動」
「青森県および北東北地域における光学・精密機械産業の現状と課題」

- 平成 28 年 4 月 まちなかフィールドスタディー助成金事業 事業報告会
報告「めざせ！鍋横綱 まちなか巡業」事業報告
- 平成 28 年 4 月 『財界 あおもり』第 95 号、2016 年春季号、「鍋横綱コンテスト」紹介記事
- 平成 28 年 4 月 幸畑団地地区まちづくり協議会開催（於：青森大学）
- 平成 28 年 4 月 平成 28 年度 青森市・青森大学連携推進会議（於：青森市役所）
- 平成 28 年 4 月 平成 28 年度 平内町・青森大学連携推進会議（於：平内町役場）
- 平成 28 年 4 月 平成 28 年度 幸畑団地地区まちづくり協議会 総会（於：青森大学）
- 平成 28 年 5 月 青森中央高校 講演、卒業研究に関する助言（於：青森中央高校）
- 平成 28 年 5 月 平内町・青森大学 平成 28 年度 第 2 回連携推進会議（於：平内町役場）
- 平成 28 年 5 月 財務省青森財務事務所打ち合わせ
- 平成 28 年 5 月 青森中央高校 課題研究に関する助言（青森中央高校）
- 平成 28 年 5 月 平内町「人、まち、仕事創生会議」（平内町役場）
- 平成 28 年 5 月 夜店通り商店街振興組合（於：夜店通り商店街）
- 平成 28 年 6 月 平内町実行委員会（平内町役場）
- 平成 28 年 6 月 財務省 青森財務事務所行政モニター会議（於：合同庁舎）
- 平成 28 年 6 月 中里高校大学見学会（於：青森大学）
東奥日報「ニュースカアップ」 隔週連載中

堀籠 崇

- 平成 28 年 2 月 5 日 「東大×青森大の学生たちによるアイデア・ワークショップ『IT で青森の交通を進化させよう！』」於：青森大学
- 平成 28 年 2 月 12 日 新町商店街ビジョン作成会議（第 4 回） 於：新町わいわいプラザ（青森）
- 平成 28 年 3 月 05 日 Internatinal Open Data Day 2016 in Aomori 於：青森大学
- 平成 28 年 3 月 17 日 青森大学教育研究プロジェクト最終成果報告会「『青森大学発 大学生の大学生による地域のための活性化コンテスト（仮）』を通じた地域貢献と専門的能力の育成プログラム—高大連携も視野に一」於：青森大学
- 平成 28 年 4 月 16 日 「青森市新町商店街花植えボランティア」に学生とともに参加 於：新町パサージュ広場
- 平成 28 年 5 月 23 日 平成 28 年度「パテント活用学生人財育成事業」に、経営学部プロジェクト演習チームとして 2 チームの事業参加採用

社会学部

社会学科

社会学部の大きな動きとしては、今年度から社会学部の運営計画を策定し、学部全体の方向性を共有しながら、各教員が担当している分野を効率よくこなせるような工夫をスタートさせたことです。今後は、運営計画自体を改善しながら PDCA サイクルを展開することになりますが、その具体的な方法として社会学部のサイボウズを立ち上げ、教員間の連絡が効率的に行うためのプラットフォームとしました。

学生募集活動は、全学の学生募集計画などに基づき、全学と協働で展開している部分と、具体的に社会学部が動いている部分があります。この学生募集の両輪を

社会学部には、地域貢献活動や学部教育の再整理など全学的な校務を担当している先生方が多くいますので、限られた時間を有効に使っていく必要があります。是非、社会学部の運営計画とサイボウズを活用して社会学部が活性化するよう努力しますので、ご協力をお願いいたします。（濫谷泰秀）

〔 国家試験対策委員会報告 〕

今年度の国家試験は平成 29 年 1 月 28 日（土）精神保健福祉士専門、29 日（日）精神保健福祉士・社会福祉士共通、社会福祉士専門で実施される予定です。受験予定学生は、社会福祉士 11 名、精神保健福祉士 3 名、うちダブル受験 2 名です。

今年度は昨年同様、実習室を受験予定者へ開放し、各自若しくはグループで受験対策を行っております。また、5 回（累計で 15 回）にわたって実施される学内模擬試験や、8 月 22 日（月）～26 日（金）に実施される「通い合宿・自主勉強会」、10 月 21 日（金）・22 日（土）の全国統一模擬試験などを実施いたします。その他、受験予定者からの要望を受ける形で苦手科目の特別講座等も不定期に実施する予定です。

また、今年度より、現 3 年生の受験希望者を対象に、特別講座を後期から開講していきます。

今年の学生はしっかりと勉強をしている学生と、全く受験対策を行っていない学生の二極化が顕著に表れているという印象があります。できる限りサポートをし、合格者を増やしたいと考えております。一人でも多くの学生が合格できるよう、最後まで指導していきます。（長内直人）

〔 精神保健福祉援助実習 〕

平成 27 年度は 5 名の学生が実習に臨み無事終了しました。5 名のうち 4 名はダブルライセンス獲得のため 4 年生で実習した学生です。

今年度は、6 名の学生が実習を予定し、2 月に障害者施設で予備実習を 5 日間行い、精神障害者とかかわる機会を設け実習の充実を図っています。すでに第 1 段階実習(5 日間、2 名は 3 日間)を終えています。今後、夏季休業期間から後期中旬にかけて第 2 段階実習(24 日間と 2 名は 26 日間)を予定しています。現在、医療関係施設と障害者支援施設の第 2 段階実習計画書の作成をしています。学生は随分悩んでいるようですが、卒業後、福祉現場で働く時には必ず役立つと思います。（藤林正雄）

〔 ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ 〕

平成 28 年度は 6 名（4 年生 2 名、3 年生 4 名）の学生が、ソーシャルワーク実習Ⅰ（5 月 23 日（月）～5 月 27 日（金）合計 5 日間）、ソーシャルワーク実習Ⅱ（8 月 22 日（月）～9 月 16 日（金）合計 20 日間）合計 25 日間の実習を、5 か所の実習先で行い、ソーシャルワーク実習Ⅰの実習が無事修了しました。夏休み中からはソーシャルワーク実習Ⅱの実習が開始されます。

実習指導に関しては、年度明け前からの実習指導Ⅰによる実習先についての基礎知識の習得や実習に臨むにあたっての心構え、綿密な実習計画の作成等、今年度の実習本番に向けての事前準備にはかなりの時間と労力をかけてきました。そして現場での実践的な体験を通して新たな知識を習得すべく、実習生達は奮闘しています。（長内直人）

[担任による面談について]

社会学部では、毎月一回おおよそ一、二週目の水曜日に担任と学生の面談日を設けて今年も実施しています。5月は18日(水)、6月は8日(水)にそれぞれ実施しました。教員一人当たり1年から4年まで10名前後の学生を担当して、毎月出席状況の確認や4年生にあつては就職状況の確認などを行っています。(佐藤豊)

[2015年度学生研究発表大会が開催される]

平成28年1月27日(水)、集いのスペース・642教室にて、社会学部学生研究発表大会が開催されました。実体験の疑問から生まれた研究や、ねぶた、人口減少問題、地域活性化、北海道新幹線開業、津軽弁について等々、地域に根差した問題に取り組んでいる意欲的な姿のみえる発表内容でした。今回は、幸畑地区の方も参加くださり、学生の研究と地域が繋がる手ごたえを実感させる大会となりました。

プログラムの内容

1) はじめの挨拶 社会学部長 藤林正雄先生

2) (発表&質疑応答)

卒業論文の部

発表者

題目

成田絢香 「世界遺産と三内丸山遺跡 ―平泉を比較事例として―」

渋谷直寿 「体罰の現状について」

福士紗恵 「循環人口から考える人口減少対策」

高橋叡 「地域ねぶたを考える ―地域ねぶたの現状とねぶたバカの衰退」

3) ①研究発表の部(4年)

発表者

題目

石岡雄太 「高校教育の改善 高大接続とキャリア教育に注目して」

相馬真也 「食とSNSコミュニティ」から見つめる「あおもり」の姿

田村康希 ～青大生へのアンケート調査を通じて～

浅利一哉 「北海道新幹線開業を見据えた道の駅いまべつの調査と今別町について

山田雄太、

木村伊都流 「就労体験で見えてくる道の駅」

井上裕人、 「日本酒「幸畑」の誕生から地域の活性化へ」

(及川裕樹、小椋慎太郎、桑原成典)

佐々木瑞樹 「対人援助スキル向上のための実践的研究」

(高森紳、館峻哉、對馬玲菜、澤村幸樹)

②研究発表の部(3年)

吉沢幾哉、「人口減少対策と多文化共生―八戸市のフィリピン人の事例を中心として―」

榎孝太

吉田彩香 「外国の食文化から人口減少対策を考える」

渡邊晃太郎、 「外国人技能実習と交流人口」

(杉田拓哉、安田拓未、館山司、倉内修矢、蔦川幸浩)

阿部康平、 「津軽弁の伝承のされ方についてI」

(葛川幸浩、渡邊晃太郎)

川村一真、 「津軽弁に対する印象と意識について」

(外崎直人、吉沢幾哉)

矢代忠暉、 「津軽弁と北海道方言のつながり」

木村拓人

小田唯斗、 「青森県の方言～津軽弁と南部弁の比較～」

(木村弥琴、泉谷雅裕)

小杉健太郎 「テレビで使われる津軽弁・南部弁」

4) おわりの挨拶&講評 社会学科長 佐藤豊先生

司会&進行(木村拓人、矢代忠暉、吉田彩香)と記録・会場(小田唯斗、加藤亜耶)

(久慈 きみ代)



[1年生英語Ⅰ-4組による映画制作]

今年度も引き続き1年生英語Ⅰ-4組では、8グループ(一グループ5人程度)で、英語を使って英語制作に挑戦しています。この制作では、英語力だけでなく、映像表現を使って学生たちの総合力にチャレンジしてもらっていますが、このような企画で学生が少しでも自信をつけてもらえればと考えております。グループによってチームワークの良し悪しが作品の出来に直結する一方、英文のシナリオ担当や編集担当にはかなりの負担がかかります。上映会は7月16日(土)12時20分～記念ホールにて実施の予定です。

[3年生対象「企業研究会」を開催]

6月10日(金)の4時間目に3年生対象の「就職活動実践演習A」の授業において第一回目の「企業研究会」がプラットフォームあおもりの支援を受けて350教室にて開催されました。



(司会役はプラットフォームあおもり米田大吉理事長)

初回の参加企業は、社会福祉法人青森県すこやか福祉事業団、(株)ホクエツ東北、(株)ページワンの3社より参加していただき、3年生はスーツを着用して求める人材など企業の話を行いました。

初回の業界研究会を皮切りに、二回目の6月24日(金)、三回目は7月15日(金)をそれぞれ予定していますが、一回目では、IT企業関係の参加者から、将来の若い社員に向けて必要なことは、社会に対してもっと敬意を払ってもらいたい、上司のみならず同期の社員に対しても敬意を払いながら仕事を行うのがとても重要です」と力説していました。

参加した3年生の学生からは、「ふだん聞くことのできない本音トークを聞くことができとても参考になった」「どの企業でも共通していたのが、一緒に働いていて楽しい人がよいとのことだったので、そういう人物になれるように努力したい」といったコメントがありました。



(授業担当：佐藤(豊)、鈴木、白岩、中田(和))

[学術論文・著書] (五十音順)

榎引 素夫「北海道新幹線開業をどうみるか 『整備新幹線論』構築への論点整理の試み」、地域社会研究、弘前大学地域社会研究会／弘前大学大学院地域社会研究科監修、(9)、2016年3月 pp.93-104.

- 櫛引 素夫「都市の空き家問題なぜ？ どうする？ 地域に即した問題解決にむけて」(共著、由井義通・久保倫子・西山弘泰編)、古今書院、2016年3月、212p.
- 櫛引 素夫「コンパクトシティ政策と郊外の空き家問題—青森市の事例からの論点整理」、青森大学付属総合研究所紀要、第17巻2号、2016年3月、pp.
- 澁谷 泰秀・渡部 諭・吉村 治正・小久保 温、(2016)「肯定的項目と否定的項目の混在が尺度に及ぼす影響: 項目反応理論による社会調査データの分析」、『青森大学付属総合研究所紀要』,17(2), 1—13.
- 酒井泰斗・浦野茂・前田泰樹・中村和生・小宮友根(編) 2016 『概念分析の社会学2—実践の社会的論理—』ナカニシヤ出版.
- 中村和生・森一平・五十嵐素子 2016「素朴心理学から Doing sociolog へ ——記述の下での理解と動機のレリバンス」酒井泰斗・浦野茂・前田泰樹・中村和生・小宮友根(編) 2016 『概念分析の社会学2—実践の社会的論理—』154頁-172頁.

[学会発表など] (五十音順)

- 櫛引 素夫「北海道新幹線開業の特徴と課題—九州・北陸・東北との比較から」、経済地理学会北東支部・日本計画行政学会北海道支部・日本計画行政学会東北支部合同公開シンポジウム「北海道新幹線開業と北東日本の地域的展望・課題」、2016年2月13日、東北学院大学.
- 櫛引 素夫「東北・北海道新幹線の行方」、青森大学・青森地域フォーラム、2016年2月20日、青森市中央市民センター.
- 櫛引 素夫「東北・北海道新幹線の行方」、青森大学・社会学部教員研究報告、2016年2月23日、青森大学
- 櫛引 素夫「遠隔地の自治体等に対する地域貢献活動の課題抽出ならびに改善案の検討」、青森大学教育研究プロジェクト最終報告会、2016年3月17日、青森大学.
- 櫛引 素夫「都市郊外への新幹線駅立地がもたらす地域課題—東北・北陸・北海道新幹線の事例から」、日本地理学会春季学術大会、2016年3月21日、早稲田大学.
- 櫛引 素夫「青森市におけるコンパクトシティ政策と郊外団地の関係性—幸畑団地の現状」、東北地理学会春季学術大会、2016年5月14日、宮城教育大学.
- 櫛引 素夫「東日本大震災とメディア」、第1回青森大学付属総合研究所研究会、2016年6月17日、青森市・フリーカフェしんまち.
- 藤 公晴 Comparative International Education Society 2016 Annual Conference 3月10日 Vancouver British Columbia CANADA .
- 1)セッション指定討論者: Environmental & Sustainability Education SIG Highlighted Session: Contesting and challenging the assumptions of education for sustainable development.
Kimiharu To. Contemplating environmental education and ESD: Cross-national case of Japan and the U.S.
- 2)ポスター発表: Dimensions of education: Cultural, moral, philosophical and social.
Kimiharu To. Contemplating environmental education and ESD: Cross-national case of Japan and the U.S.

藤 公晴 (共同研究) Linkage between national policy and environmental educators: How are you treating sustainable development?

共同研究者: Sharon Moran (Ph.D. ニューヨーク州立大学大学院環境学研究所), Andrea Parker (Ph.D. ニューヨーク州立大学大学院環境科学研究所) 研究会議実施日: 5月14日、20日.

[報告書・書評・寄稿など]

楢引 素夫◇東洋経済オンライン (<http://toyokeizai.net/>) 連載「新幹線は街をどう変えたか」

「人的連携が成否を握る『北海道新幹線』／函館と青森、新幹線効果は海峡を超えるか」、2016年1月5日.

楢引 素夫 「道南の『ハブ』を目指す北海道・木古内町／新幹線駅に生かす青函トンネルの『苦い教訓』」2016年2月1日.

楢引 素夫 「本州最北端の新幹線駅がある青森・今別町／若者を惹きつける『日本一小さい新幹線の町』」、2016年3月21日.

楢引 素夫 「『道民の悲願』達成も、将来像はまだ見えず／新幹線開業初日、『変わる北海道』の姿を見た」、2016年3月29日.

楢引 素夫 「全線開業5周年の祝賀ムードが一転したが…／熊本地震で寸断した『九州新幹線』復旧の行方」、2016年4月25日

楢引 素夫 「青函間は従来比で乗換や時間増大、料金高に／北海道新幹線、見えてきた地元・観光客の不満」、2016年4月26日.

楢引 素夫 「開業から5年、地震乗り越え経済効果は大／九州新幹線で『最も恩恵を受けた地域』は?」、2016年5月19日.

◇その他

楢引 素夫 「『かがやき』のありかー北陸新幹線・開業1年」(北日本新聞、上・中・下、2016年3月12日、19日、26日).

楢引 素夫 「北海道新幹線 赤字予想で険しい船出 国土的位置づけ再考を」、エコノミスト、94(11)、p.99、2016年3月15日号.

楢引 素夫 「新幹線は国土をどう変えるのか」、週刊東洋経済・臨時増刊「鉄道全真相 2016」、p.18-21、2016年5月4日号.

楢引 素夫 「『地図に残る仕事』の意義と重さ」、地図情報、137号、地図情報センター、p.23-25、2016年4月.

楢引 素夫 「九州新幹線の特性 他地域との比較から」、KER 経済情報、No.315、九州経済研究所、p.6-10、2016年6月.

藤 公晴 アートが繋ぐ震災の記憶と希望: 「月刊れちおん青森」平成28年7月号 一般財団法人青森地域社会研究所.

[出張講義・講演など] (五十音順)

楢引 素夫 弘前市オープンデータワークショップ part2 ファシリテーター (2016年1月24日、弘前市・土手町コミュニティパーク)

- 櫛引 素夫 北海道経済産業局「北海道新幹線開業を契機とした産業活性化セミナー」講演・「北海道新幹線開業をどう生かすか」、(2016年2月19日、札幌エルプラザ)
- 櫛引 素夫 青森大学・青森地域フォーラム報告「青森大学の地域貢献―連携協定パートナーとの活動を中心に」(2016年2月20日、青森市中央市民センター)
- 櫛引 素夫 NPO 法人あおもり若者プロジェクト・クリエイト第21回「まち塾」講演「新幹線がやってくる」(2016年2月27日、青森市・リンクモア平安閣市民ホール)
- 櫛引 素夫 五戸町民大学講座「地域防災力をどう向上させるか」(2016年3月17日、五戸町立公民館)
- 櫛引 素夫 青森放送・北海道新幹線開業ラジオ中継解説(2016年3月26日、新青森駅)
- 櫛引 素夫 BS-TBS「Biz-Street」北海道新幹線開業特集コメンテーター出演(2016年3月26日、TBS)
- 藤 公晴 (海外研究者招聘、研究会企画協力、通訳)平成28年度第1回青森大学附属総合研究所研究会「環境問題と人間行動：メディアなどの影響力」 Bruno TAKAHASHI Ph.D. Knight Center for Environmental Journalism, School of Journalism and Department of Communication, College of Communication Arts and Sciences, Michigan State University 日時：6月17日15:30-17:30 会場：フリーカフェ新町。

[地域活動] (五十音順)

- 櫛引 素夫 特定非営利活動法人青森県防災士会理事
 特定非営利活動法人ひろだいリサーチ理事
 青森地方労働審議会委員
 青森地方最低賃金審議会委員
 青森地方労働紛争担当参与
 「大学生観光まちづくりコンテスト2016」青森ステージ運営委員
 青森県中山間地域対策協議会委員
 人口減少社会対応型商店街構築事業・戦略策定委員会委員
 青森市いじめ防止対策審議会会長
 青森市・幸畑団地地区まちづくり協議会運営委員
 青森大学×平内町連携プロジェクト実行委員会・副実行委員
 青森KEN民塾世話人
 ※JR東日本「駅からハイキング」運営協力
 ※「大学生観光まちづくりコンテスト2016」青森ステージ・学生参加指導
 ※「道の駅いまべつ」と青森大学の連携協定締結および調査研究事業
 ※インターナショナル・オープンデータ・デー運営協力(2016年3月5日、青森大学)
 ※NHK青森「防災ラジオ」出演(3月4日、6月10日)
 ※整備新幹線問題、地域づくり、人口減少問題等で青森放送、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、北海道新聞、河北新報、新潟日報、北日本放送などに取材協力。インタビュー記事・談話掲載・ニュース報道多数。
- 藤 公晴 平内町ハクチョウまつり事業実行委員会委員長(平成27年6月～平成28年3月)。
 青森県環境審議会 委員 (平成24年度～)
 「アートがつなぐ震災の記憶と希望」マグダレナ・ソレ氏との対談、青森県社会教育セ

ンター、3月16日(水)。

青森大学自然学校 OBOG 会、東岳野草観察会 講師 (5月29日)。

ソフトウェア情報学部

[平成 27 年度卒業研究発表会]

平成28年2月17日(火) 9:00~14:40に本学5号館5206教室で卒業研究発表会が開催され、10研究室に所属する22名の学生が発表を行いました。情報システム、CG・マルチメディア、ロボット・組込みシステムの各々の分野で1年間の間取り組んできたテーマについて、実演を交えながらプレゼンテーションが行われた。これに対して、学生、教員から多くの質問が出され活発な質疑応答がなされた。

発表者と研究テーマ

堀端研究室

小笠原 剛 IDA*による 15 パズルの探索過程の視覚表現
藤田 陽平 低マンハッタン距離の盤面生成 ~デモでの使用に向けて~

李研究室

豊川 拓磨 最短路問題の解法
細川 敬倫 虹のシミュレーション

友田研究室

阿部 文洋 TAB 譜入力可能な MIDI シーケンサの開発
大宮 僚祐 ネットワーク対戦カーリングゲーム

坂井研究室

佐藤 優 バーチャルリアリティを用いた 3D 作業空間の実現
外崎 雅和 地域問題に対する関心を高めるためのコンテンツの制作

小久保研究室

大沢 凌平 親水公園水質調査データのマッピングと視覚化
須郷 翔大 昆布羊羹を世界にプロモーションするための Web マーケティング

和島研究室

伊藤 真也 光の岬ゲーミフィケーションアプリの開発
坂本 一吉 リアルな戦前の街並み再現 - 地図を使った街並み再現 -

角田研究室

石川 佳実 青森商業高校文化祭フリーペーパー・アプリ プロジェクト
大石 康正 地震シミュレーターの開発

緑川研究室

須藤 明仁 「精説高校数学」及び「教員採用試験」の解答作り
柿崎 佑弥 New AodaiView の制作
中村 庸祐 New AodaiView の制作

橋本研究室

大平 拓弥 ET ロボコン 2015 走行プログラム開発
木村 和史 UML の教材作成

矢萩研究室

齋藤 公祐 多機能移動ロボットの設計
平野 風太 コップ昇降ロボットの設計製作
三津谷 禎仁 茶運び人形の再現 III

[卒業生の活躍がテレビ放映] (小久保 温、角田 均、和島 茂)

この春、東京の IT 企業に就職した石川佳実さん(角田研究室出身)が、テレビ朝日の「スーパー」チャンネルで5月7日(土)に「奮闘・"イマドキ"新人女性「上京物語」」で、「22歳東北娘の夢「ビッグに！」

として取り上げられました。

番組では、なぜ東京の会社に就職したのか、新入社員の出会う仕事上の試練が紹介され、元気に活躍している姿が放映されました。

[基本情報技術者試験午前試験免除講座] (友田 敏章、李 孝烈、角田 均、小久保 温、和島 茂、紅林 亘、岩淵 護、堀籠 崇、松本 大吾)

ソフトウェア情報学部と経営学部では平成 26 年度から学部連携事業として、基本情報技術者試験(情報処理推進機構)の午前試験免除講座を実施している。指定された科目を受講することで、基本情報技術者試験の午前試験を免除するための修了試験の受験資格を得ることができる。修了試験前には集中的な試験対策講座を行って合格率アップを狙い、本試験では午後の試験に集中することで合格率を高めることを目指している。

初年度である一昨年度はソフトウェア情報学部 1、2 年生の 18 名と経営学部 3 年生 9 名が受講し、午前試験免除のための修了試験受験資格を取得、昨年度の修了試験では 7 名が午前試験免除の資格を得た。今年度はソフトウェア情報学部 2 年生 21 名を含む計 24 名が一度目の修了試験を受験し、3 名が合格して午前試験免除の資格を得た。残りの学生も 7 月に実施される 2 度目の修了試験に向けて集中授業に励んでいる。

[青森商業高校課題研究技術指導] (小久保 温、角田 均、和島 茂)

平成 28 年度、Web プロモーションをテーマに、青森大学ソフトウェア情報学部は、青森商業高校情報処理科 3 年生の教科「課題研究」の技術指導を行っている。

青森商業高校と青森大学は連携協定を結び、高大連携による高校教育の高度化を目指して活動してきた。その一環としてソフトウェア情報学部では、青森商業高校情報処理科 3 年生の課題研究の技術指導を行っている。

平成 27 年度の高大連携の課題研究のテーマは、フリーペーパーに着想を得た、青森商業高校の文化祭「青商祭」の情報を発信するスマートフォン向けの Web アプリケーションの開発で、これを通じて実践的なソフトウェア開発と運用を高校生と大学生が学んだ。これに関わった 4 年生(当時)の石川佳実さんは、青森 IT ビジネス・マッチング交流会のショートプレゼン大会で優勝している。その一方で、運用やプロモーションには課題も見られた。

平成 28 年度は、昨年度の取り組みの課題であった運用とプロモーションを改善することに取り組んでいる。課題研究に関わる高校生たちは、青商祭のプロモーションを担当する。そのために、Web 技術の基礎、Web 向きの文章の書き方、撮影した写真の処理などを学んでいる。今後、具体的なプロモーションの企画、計画、実施に取り組む予定である。

これまでに行った技術指導の内容は以下の通りである。また、今後、7 月 6 日(水)に新町商店街にて、実際の店舗(甘精堂本店を予定)を取材し Web ライティングの演習を行う予定で、また、運用に向けて打ち合わせを行っていくことになっている。

4 月 20 日(水): 青森商業高校にて、プロジェクトの全体像を紹介

5 月 11 日(水): 青森大学にて、HTML の技術指導

6 月 8 日(水): 青森大学にて、Web ライティングと写真の処理の技術指導



【IT 新技術人材育成研修事業「ペッパーとともに考えるビジネスチャレンジアイデアワーク」】(小久保温、角田 均)

青森県が主催する、IT 新技術人材育成研修事業「ペッパーとともに考えるビジネスチャレンジアイデアワーク」にソフトウェア情報学部の3、4年生が参加しました。

人型ロボット「ペッパー」のビジネス活用をテーマに、青森県の新産業創造課が主催するアイデアワークが平成28年1月9日(土)に青森公立大学で開催され、県内の企業、行政関係者、大学生や高校生50名がアイデアソンに取り組みました。

ソフトバンク株式会社によるインプットセミナーではペッパーの活用事例として、銀行の窓口でペッパーを導入して体感待ち時間を減らす取り組みや、携帯ショップでの接客にペッパーを導入して家族連れを誘客する取り組みなどが紹介されました。続いて50名が6つのグループに分かれて観光/医療/教育の分野でのロボットの活用アイデアを競うアイデアソンを行い、個人とグループでのアイデア発表を行いました。会場には3台のペッパーが用意され、発表では実際にペッパーを使ったコミュニケーションの実演を交えたプレゼンテーションが行われました。様々な業種・職種の社会人と大学生が混じった活発なグループワークの中から、豊富な知識と柔軟な発想に基づくユニークなロボット活用アイデアが次々に紹介されました。青森大学の学生も日頃の学びを生かし積極的に新しい発想を示していました。



[オープンデータ表彰(普及啓発貢献部門)受賞、データ活用アドバイザー委嘱](小久保 温、角田 均)

平成 28 年 1 月 22 日(金)にアピオあおもりで、あおもり地域データ活用コンソーシアムが主催する「あおもりオープンデータ活用推進フォーラム 2016」が開催され、オープンデータ表彰の普及啓発貢献部門で県内の産官学組織の中から青森大学が受賞しました。このフォーラムは、企業や自治体から個人まで、あらゆるデータをインターネットを通じて開放・共有し、それを活用した新しいサービスや事業などの価値創造を目指す「オープンデータ」について考えるため行われました。



フォーラムでは、青森県商工労働部長・八桁氏による挨拶に続いて、県内の優れたオープンデータの

活動を表彰する「オープンデータ表彰」の授賞式が行われ、三沢市商工会(データ開放貢献部門)、株式会社トヨタレンタリース青森(データ利活用貢献部門)とともに、青森大学が普及啓発貢献部門で受賞しました。株式会社インフォバーン代表取締役・小林弘人氏と東京地下鉄株式会社常務取締役・村尾公一氏による基調講演では、世界におけるオープンデータの潮流やオープンデータによる「新しい公共」の考え方、東京メトロの電車運行データの公開による新しいサービスの開発と事業への展開事例などが報告され、データをオープンにすることの意義や大きな可能性が紹介されました。またフォーラムの最後には地域でのオープンデータを推進する「データ活用アドバイザー」の委嘱式が行われ、青森大学ソフトウェア情報学部から小久保温准教授が県内5名の中の一人として選任、コンソーシアムの米田剛代表から委嘱状を授与されました。



フォーラムの様子は、東奥日報の平成28年1月23日朝刊5面にも掲載されました。

[東大×青森大の学生たちによるアイデア・ワークショップ「ITで青森の交通を進化させよう!」](中田 和一、堀籠 崇、樺引 素夫、小久保温、角田 均)

平成28年2月5日(金)午後に青森大学で、東京大学の鳩山紀一郎先生の担当するゼミと青森大学の学生たちが、「ITで青森の交通を進化させよう!」というテーマでアイデア・ワークショップを開催しました。

鳩山先生は、東京大学社会基盤学専攻交通・都市基盤計画研究室に所属し、あおり ITS(※)推進研究会、青森 ITS クラブとともに、青森の交通情報の改善に取り組んでいます。あおり ITS 推進研究会は、青森大学薬学部の中田和一先生が会長をしています。

※ITS(Intelligent Transport Systems: 高度道路交通システム)。事故や渋滞などをはじめとした情報を活用し、交通を改善するシステム。

今回そのご縁で、交通を勉強している鳩山先生の3年生のゼミの学生7人と、ITを勉強している青森大学ソフトウェア情報学部の学生をはじめ経営学部・社会学部の学生たちおよそ20人で、青森の交通をITで進化させるアイデアを考えました。また、青森ITSクラブ、JR東日本盛岡支社の方々にもおいでいただきました。

ワークショップでは、最初に鳩山先生からワークショップの趣旨と「あおもり交通情報」(<http://aomori.cc/traffic/pc/>)について紹介がありました。

次に、自己紹介も兼ねて、青森大学の学生たちが、除雪、雪の車道や歩道、LED信号機、公共交通機関など、冬季を中心に青森の交通の課題を写真を交えたPower Pointを用意し、紹介しました。

そして、東京大学の学生たちが、ロジスティック回帰分析、クラスター分析、ランダムフォレストなどの「機械学習」の技術を活用して、運休、すべりやすい場所などの交通情報を予測する「見込み情報」の研究について紹介しました。「機械学習」とは、人間が学習するような機能をコンピュータに持たせる技術の総称です。過去のデータを学習し、それを元に様々なことを予測するのに活用されています。

その後、公共交通機関・除雪・観光の3つのグループに分かれて、交通の課題とそれを情報技術を活用して解決するアイデアを検討しました。アイデア・ワークショップでは、学生たち自身で話し合いの内容を決め、進めていきました。話し合いの後半では、東京大学と青森大学の教員が、学生たちの話し合いにアドバイスをしました。

発表会では、「バスの運行の効率や情報の課題があり、これを季節と対象者ごとに求められている情報や提供手段を分類して提供することで改善」「除雪に関する情報を市民に提供し、市民が自律的に行動を最適化できるようにする。気温や積雪量や人や乗り物の移動や除雪の情報から、すべりやすさを予測して知らせる」「見たいねぶたを見逃さないように運行中にねぶたの現在位置を提供。栈敷の空席情報を利用して観覧効率を上げる。運行ルート内の空き店舗の情報を利用し、ねぶた期間に観光の活性化や産業の発展に活用」などの技術的には実現化の可能性が十分にあり得るアイデアがたくさん提案されました。

学生たちも共に仲良くなり、交流を深めることができ、大変よい機会になりました。

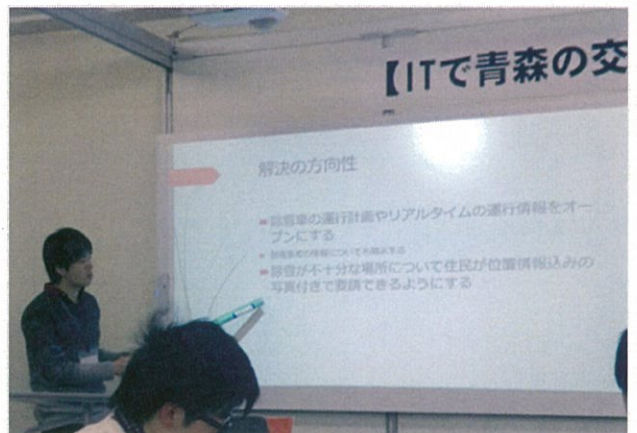
○参加者

東京大学工学部社会基盤学科 東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻 交通・都市・国土学研究室：鳩山紀一郎講師・柳沼秀樹助教、ゼミに所属する大学3年生7人

青森大学：経営学部・社会学部・ソフトウェア情報学部1～3年生およそ20人、経営学部：堀籠崇准教授、社会学部：榎引素夫准教授、ソフトウェア情報学部：角田均教授・小久保温准教授、薬学部：中田和一教授

青森ITSクラブ：阿部一能理事長・葛西章丈理事・五十洲あきさま

JR東日本盛岡支社：久保崇紀さま・白川剛さま



[平成 27 年度青森 IT ビジネス・マッチング交流会](田中 志子、小久保温、角田 均、和島 茂)

平成 28 年 2 月 16 日(火)午後ねぶたの家ワ・ラッセで開催された平成 27 年度青森 IT ビジネス・マッチング交流会に青森大学から 4 件出展しました。また、ショートプレゼン大会で、ソフトウェア情報学部 4 年の石川佳実さんが優勝しました。

- ・平成 27 年度青森 IT ビジネス・マッチング交流会

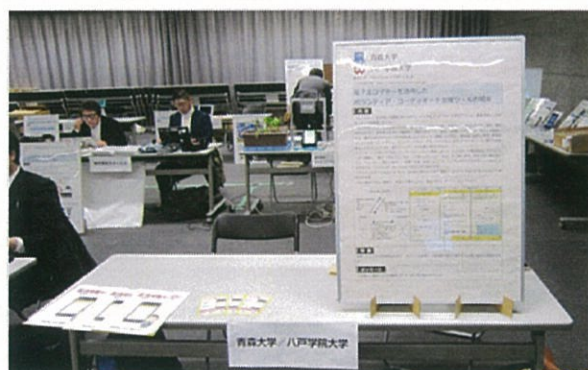
http://www.pref.aomori.lg.jp/sangyo/energy/matching_kouryukai2015.html

青森県では青森を IT(情報技術)ビジネスで盛り上げようと、産学官で「新時代 IT ビジネス研究会」を設立し、意欲的な取組みを展開してきました。新時代 IT ビジネス研究会と青森県が主催の「青森 IT ビジネス・マッチング交流会」は、青森県に関連した IT の取組みの発表会です。今年度は第 1 部が青森県の事業報告、第 2 部がプレゼン道場と展示 PR でした。

青森大学からは、第 2 部のプレゼン道場と展示 PR に、地域と連携した取組み 3 件、ソフトウェア情報学部の学生個人の成長体験の報告 1 件を出展しました。

- ・青森大学×株式会社リンクステーション「発達障害児童向け生活訓練用アプリ「ぐんぐん」」：登壇者 新宅伸啓くん(青森大学ソフトウェア情報学部 3 年生)
- ・青森大学×青森県立青森商業高等学校「フリーペーパー・アプリで最新情報をお届け！～青商祭アプリの開発～」：登壇者 石川佳実さん(青森大学ソフトウェア情報学部 4 年生)
- ・青森大学×八戸学院大学「電子エコマネーを活用したボランティア・コーディネート支援ツールの開発」：登壇者 田中志子先生(青森大学社会学部准教授)
- ・青森大学ソフトウェア情報学部 3 年 澤田洋二くん「青森県の IT セミナーで得られたもの」

プレゼン道場では、青森大学と青森商業高校の高大連携の取組みを発表した石川佳実さんが最優秀賞を受賞しました。応援してくださったみなさまどうもありがとうございました。プレゼン道場では、全部で21件の発表がありました。青森大学の学生の発表は、いずれも参加者のみなさまから好評をいただきました。





【情報処理学会東北支部研究会】(小久保 温、角田均、大沢遼平)

平成28年2月19日(金)に弘前大学で開催された平成27年度第8回情報処理学会東北支部研究会で、ソフトウェア情報学部4年生の大沢遼平君(小久保研究室)が卒業研究で取り組んだ地理情報システムの開発と活用について発表しました。

大沢君は昨年度、3年生の創作ゼミナールの研究で開発したWebベースの使いやすい地理情報システムを用いて、青森県六ヶ所村立尾駮小学校4年生の総合的な学習の時間に行われている野外観察の成果を小学生が自分でシステムにマッピングする取組みを実施、その成果を平成27年3月の水環境学会全国大会(金沢大学)「環境学習用Webアプリの開発と小学生による尾駮沼環境調査のマッピング」と題して発表しました。

今回の研究は、その時の学会発表で大沢君の開発した地理情報システムに興味を持った日本大学の大学院生との共同研究で取り組んだものです。今回の研究では昨年度開発した地理情報システムをベースに、共同研究者の持つ東京都全域の親水公園の水質調査結果をマッピングするための機能を取り入れた新たな地理情報システムを開発、実際に水環境分野の研究で活用した事例として「親水公園水質調査データのマッピングと視覚化」のタイトルで報告を行いました。発表では、オープンサービスやクラウドシステムを活用することで従来のシステムに比べて圧倒的な低コストでの開発・運用を実現したこと、またWebアプリとして実装することで利用環境を選ばない、ユニバーサルなシステムを実現したことなどを、実際の機能デモを交えながら説明しました。多くの研究者・大学院生に交じって、唯一の学部生として堂々と発表を行いました。



【水環境学会東北支部ワークショップ】(小久保 温、角田 均、大沢遼平、澤田洋二)

日本水環境学会東北支部水環境総合性指標研究会の主催による平成 27 年度水環境学会東北支部「水辺のすこやかさ指標」ワークショップが平成 28 年 2 月 27 日(土)に東北工業大学一番町ロビーで開催されました。ワークショップでは水辺のすこやかさ指標の教育現場での活用と普及についての話題提供とディスカッションが行われました。

青森県からはソフトウェア情報学部の研究室で取り組んでいる地理情報システムを活用した研究を紹介、指標の普及・活用についての新しい方向性を示す取り組みとして、研究者や学校現場の教員から様々な意見や提案を頂きました。

【大川情報通信基金 2016 年度研究助成授与式】(小久保 温、角田 均、伊藤 真也、新宅 伸啓、柏谷 至、工藤 雅世、田中 志子)

株式会社リンクステーションとの共同研究による、発達障害を持つ児童向けの生活支援アプリ開発の取り組み「タブレット端末とクラウドシステムを利用した発達障害の児童向け生活訓練サポートシステムの開発」が公益財団法人大川情報通信基金の平成 28 年度研究助成に採択され、1,000,000 円(1年間)の研究助成を受けることになりました。

ゲーミフィケーションのしぐみを発達障害の児童の社会性や生活習慣の改善・向上のための訓練に取り入れたシステムを、タブレット端末とクラウドシステムをベースに開発し、実証実験を通じてその有効性を検証することを目的にしています。弘前市の NPO 法人光の岬福祉研究会の協力を得て既に開始している実証実験には各方面からも注目が集まり、多くの新聞社からも取材を受けています。

平成 28 年 3 月 2 日(水)に ANA インターコンチネンタルホテル東京で開催された研究助成授与式では、国内 24 名、中国・韓国 8 名の研究者に対し、研究助成金の贈呈が行われました。また贈呈式を記念して、東京大学大学院経済学研究科教授の伊藤元重氏による「経済の展望と産業」をテーマとした基調講演が行われました。



【International Open Data Day 2016 in AOMORI】(紅林 亘、小久保 温、角田 均、和島 茂)

オープンデータを知る・体験する・考える・作る世界同日開催イベント「International Open Data Day 2016 in AOMORI」が青森大学を会場に3月5日(土)に開催されました。「オープンデータ」とは、自治体や企業が持つ様々な情報を、誰もが自由に使うことのできる形で共有・活用し、サービスや事業などの新たな価値を生み出す考え方です。International Open Data Dayは、世界中の組織・機関によるオープンデータの取り組みを支援し、オープンデータの普及と活用を促進するためのイベントで、世界中の開催地で同じ日に一斉に開催されるお祭りです。

今回のイベントでは世界の261の開催地でハッカソンやアイデアソン、ワークショップなどが開催され、日本国内でも67会場で2,000人以上の人が参加しました。青森県では2013年の初回から4年連続で青森大学を会場にイベントを開催しており、今年度も青森大学、あおもり地域データ活用コンソーシアム、青森県の主催で青森大学を主会場に、八戸のサテライト会場を加えて開催しました。青森会場では「雪×オープンデータ」をテーマに、雪の街ならではのアイデア・ワークショップを実施、またソフトウェア情報学部で開発したデータマッピングシステムを活用した「青森県市町村データ分析ワークショップ」も並行して実施しました。青森会場では高校生17名、大学生27名、大学院生と社会人19名の合計63名が参加、サテライト会場を含めて過去最大の参加人数となりました。ワークショップでは1つのグループに高校生と大学生と社会人が混ざるように7つのグループに分かれ、それぞれの立場で様々な意見やアイデアを出し合って成果をまとめました。成果発表ではサテライト会場とインターネット中継で結び、サテライト会場の1グループも含めた8グループが成果を発表、無事にイベントを終了しました。イベントに参加して下さった皆様、ご協力頂いた皆様に心より感謝します。



【情報処理学会全国大会】(小久保 温、角田 均、澤田 洋二、新宅 伸啓)

平成 28 年 3 月 10 日(木)～3 月 12 日(土)に慶應義塾大学(矢上キャンパス)で開催された情報処理学会第 78 回全国大会で、ソフトウェア情報学部小久保研究室所属の 3 年生 2 名が創作ゼミナールで取組んだ研究を発表しました。



[発表 1] 「発達障がいを持つ子供の生活訓練のためのゲーミフィケーション・アプリケーション」(新宅伸啓(ソフトウェア情報学部 3 年、小久保研究室))

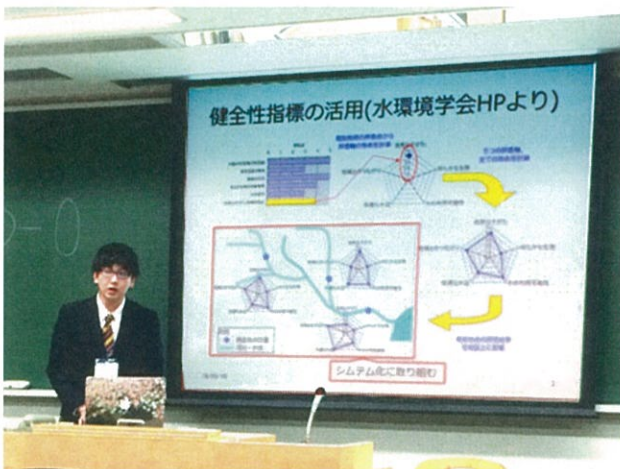
社会学部とソフトウェア情報学部が株式会社リンクステーションと共同で進めてきた地域連携研究

の新たな取組みとして、弘前市で発達障がい児の生活支援デイサービスを行っている NPO 法人光の岬の協力の下で進めている研究です。今年度はソフトウェア情報学部 3 年生の新宅伸啓君と 4 年生の伊藤真也君が共同で、タブレットとクラウドを用いた生活支援システムの開発に取り組みました。昨年末から 3 か月間、光の岬で実証実験を行い、新聞各紙(東奥日報、陸奥新報、河北新報、朝日新聞)にも大きく取り上げられました。今回は代表して新宅君が発表、鋭い質問にもしっかりと受け答えました。



[発表 2] 「水環境健全性指標の可視化のための Web アプリケーションの開発」(澤田洋二(ソフトウェア情報学部 3 年、小久保研究室))

環境省が定める「水健全性指標」を教育の場で活用するための仕組みとして、水環境学会東北支部との共同研究として進めてきた Web マップアプリによる新しい地理情報システムの試作について報告しました。4 年生の大沢凌平君が昨年度の水環境学会全国大会で発表した研究を引き継ぎ、3 年生の澤田君が今年度新たに開発したシステムについて、今回は主に技術的な観点で報告しました。水環境学会の全国の研究者からも注目されている研究で、3 年生の澤田君が堂々と発表しました。



大会では IEEE Computer Society 会長の R.U.Fujii 氏による基調講演や、各分野から推薦された「尖った研究者」によるライトニングトークを集めた IPSJ-ONE などのイベント・セッションがたくさん企画され、発表者の 2 人にとっても卒業研究の新たなイメージにつながる刺激的な経験となりました。

[平成 27 年度第 4 回芸術科学会東北支部研究会](小久保 温、角田 均、和島 茂、伊藤 真也、大石 康正、工藤 貴裕、葛原 尚人、新宅 伸啓、橋本 武宗)

平成 27 年度第 4 回 芸術科学会東北支部研究会が平成 28 年 3 月 26 日(土)、青森大学ソフトウェア情

報学部の主催でねぶたの家ワ・ラッセを会場に開催されました。

芸術科学会は「アート」と「テクノロジー」の融合を目指す学会で、「デジタルアート」「メディア芸術」「エンタテインメントコンピューティング」など、幅広い分野で斬新な研究に取り組んでいます。

東北支部は全国3支部(関西、東北、中部)の中でも最も活発な支部で、毎年多くの研究会やアートイベント、コンテストなどを開催しており、ソフトウェア情報学部も常連として研究発表や研究会の主催を行っています。今回の研究会でもソフトウェア情報学部の学生による4件の研究発表を行いました。



[発表1]「Scratchを題材としたプログラミング講座の取り組み」葛原尚人(3年生)、橋本武宗(3年生)
ビジュアルプログラミングの環境を用いた、大学生による高校生向けのプログラミング入門講座の取り組みを報告しました。高校生を相手に実際に多くのセミナーを実施することで、参加者の反応を元に講座内容を大きく改善できたことが報告されました。



[発表2]「ブラウザで動作する地震シミュレーター —地震の脅威の再認識—」大石康正(4年生)

内容: 4年生(正確には卒業生)の大石君が卒業研究で取り組んだ、東日本大震災の3DCGによる可視化の研究を発表しました。地震波動のデータと正確な物理シミュレーションにより、被災地で実際に起こった室内被害をアニメーションで再現している。

[発表3]「発達障がい児のための生活支援アプリケーションの開発 —ゲーミフィケーションの活用と考察—」新宅伸啓(3年生)、伊藤真也(3年生)

3月上旬の情報処理学会全国大会に続いての発表になります。情報処理学会では主にシステムの構成や実装手段について報告しましたが、今回は児童が操作するインターフェースの完成度や、ゲーミフィケーションの活用について評価・検討を行いました。



[発表 4] 「太宰の見た青森 一失われた街並みの再創造」 工藤貴裕(3年生), 坂本一吉(4年生)

社会学部の工藤研究室と共同で進めている街並み再現の取組みについて、これまでの卒業生による成果と、現在進めている新たな「再創造」のための様々な試みを報告しました。

関東地区からの参加者も加えて 30 名程度の小規模な研究会ですが、質疑時間を多くとって参加者同士の議論に重点を置くのが特徴で、今回もメンバーによる活発な議論が行われました。今回は主催者としてソフトウェア情報学部から2年生と3年生(と卒業生)11名が参加、発表だけでなく会場準備や受付、発表補助などの運営側として積極的に働き、学外の参加者からもご好評を頂きました。

[活動報告]

白岩 貢【レクチャーコンサート・イン・シュトラウスⅢ】シューベルト歌曲によるレクチャーコンサート(共演：友田恭子) 2016年1月29日、青森市・シュトラウス

白岩 貢【春を待つ小さな音楽会】抒情歌、世界の名曲の演奏(共演：高橋美佐子)
2016年2月20日、横浜市泉区文化センター

白岩 貢【春のコンサート】唱歌二重唱・世界の名曲の演奏(共演：吉田信子、竹内奈緒美)
2016年3月20日、県民福祉プラザ4階県民ホール

白岩 貢【県病ふれあいコンサート】名曲コンサート(共演：相馬直子)
2016年3月24日、青森県立中央病院

白岩 貢【春一番のコンサート】抒情歌、世界の名曲の演奏(共演：高橋美佐子)
2016年3月25日、神奈川県大和市・中央林間ヤマハセンター

白岩 貢【青森北東ロータリー創立 50 周年記念式典】記念歌「奏風歌」作曲(作詞：遠間善弘) 記念歌
発表演奏、祝歌演奏(共演：相馬直子) 2016年4月14日、ホテル青森

白岩 貢【色とりどりの歌曲を集めて】英語歌曲、重唱演奏(共演：長島剛子<国立音楽大学>)
2016年4月30日、青森市男女共同参画プラザ AV 多機能ホール

[学会・研究会発表]

大沢 遼平・角田 均・小久保 温・滝本 麻理奈(日本大学大学院)・三上 一((元)青森環境管理事務所)、
「親水公園水質調査データのマッピングと視覚化」、平成 27 年度情報処理学会東北支部研究会、2016
年 2 月 19 日、弘前大学

新宅 伸啓・伊藤 真也・角田 均・小久保 温・田中 志子・柏谷 至・工藤 雅世・坂田 令(株式会社リンクステーション)、「発達障害を持つ子供の生活訓練のためのゲーミフィケーション・アプリケーション」、平成 27 年度日本情報処理学会全国大会、平成 28 年 3 月 10 日、慶応大学

澤田 洋二・大沢 遼平・小久保 温・角田 均・三上 一((元)青森環境管理事務所)、A1-4「水環境健全性指標の可視化のための Web アプリケーションの開発」、平成 27 年度日本情報処理学会全国大会、平成 28 年 3 月 10 日、慶応大学

葛原 尚人・橋本 武宗・和島 茂、「Scratch を題材としたプログラミング講座の取り組み」、平成 27 年度第 4 回芸術科学会東北支部研究会、平成 28 年 3 月 26 日、ワ・ラッセ (青森市)

大石 康正・和島 茂、「ブラウザで動作する地震シミュレーター —地震の脅威の再認識—」、平成 27 年度第 4 回芸術科学会東北支部研究会、平成 28 年 3 月 26 日、ワ・ラッセ (青森市)

新宅 伸啓・伊藤 真也・小久保 温・角田 均・田中 志子・柏谷 至・工藤 雅世・坂田 令 (株式会社リンクステーション)、「発達障がい児のための生活支援アプリケーションの開発 —ゲーミフィケーションの活用と考察—」、平成 27 年度第 4 回芸術科学会東北支部研究会、平成 28 年 3 月 26 日、ワ・ラッセ (青森市)

工藤 貴裕・坂本 一吉・角田 均・和島 茂・工藤 雅世、「太宰の見た青森 —失われた街並みの再創造—」、平成 27 年度第 4 回芸術科学会東北支部研究会、平成 28 年 3 月 26 日、ワ・ラッセ (青森市)

【講演】

角田均、「地理情報システムによる水環境可視化について」、平成 27 年度水環境学科東北支部ワークショップ、2016 年 2 月 27 日、東北工業大学一番町ロビー

薬 学 部

【 新任教員のご紹介 】

今年度新しく 8 名の教員が赴任されました。先生方の青森大学への貢献、ご活躍を期待しております。

教授 岡島 史和 (病態)

教授 佐藤 芳久 (実務)

准教授 福井 雅之 (衛生)

准教授 植木 章晴 (有機化学)

准教授 津田 岳夫 (生物物理)

准教授 宮城 孝満 (物理薬剤)

助教 井沼 道子 (生物薬剤)

助教 中北 敏賀 (有機化学)

【 日本薬学会第 136 年会にて薬学部生 2 名が研究成果を発表 】

3 月 28 日 (月)、横浜で開催された日本薬学会第 136 年会において 2 名の薬学部 4 年生が学会報告を行いました。授業で忙しい中、研究の成果をまとめ上げ発表を実施することができました。

本木 雅大 「青森県産食品素材に関する研究に関する研究 -干菊の成分研究第 2 報-

村上 浩一 「頭頸部扁平上皮癌の CD44 過剰発現は細胞周期 G2/M 期の DNA 修復シグナル経路による mitotic catastrophe に抵抗する」

【薬学部リメディアル教育の刷新】

近年、薬学部では学力不足が目に見える形となっており、国家試験の受験にも影響が見えつつあります。そこで今年度より、1年生から習熟度別に対応するべく、「オーバーカムプログラム！」と銘打ったクラス別授業を実施しております。

入学式の2日後にプレースメントテストを行い、そのテストなどで学力不足と判定された学生に対して10名程度のクラスを数学・化学それぞれ2クラスずつ作り、週2日、個別指導に近い形で授業を行います。数学は薬学に必要な基礎計算、化学は高校で履修してこなかった学生がいることを考慮して、高校化学の総復習を行います。その一方、同時進行で進んでいる通常講義とのリンクを意識した内容を盛り込んでいます。また、学生一人ひとりに対して個別面談を行い、現在の学生にはどんな悩みがあるのかをヒアリングし、学習に対するアドバイスをしています。

その結果、通常講義が分かるようになってきたというコメントが学生から出されるなど、通常講義で昨年度より成績の良い学生が増えたという報告が出ています。このシステムはまだ始まったばかりのため、現在は数学と化学のみですが、それ以外の科目、例えば生物や国語などにも広げていくことを検討しています。

【報告論文】

- Son S. -H.; Seko, A. Daikoku, S. Fujikawa, K. Suzuki, K. Ito, Y. Kanie, O. Endoplasmic reticulum (ER)-targeted, galectin-mediated retrograde transport using a HaloTag carrier protein; *ChemBioChem*, 17, 630-639 (2016).
- Kanie, O Shioiri, Y. Ogata, K. Uchida, W. Daikoku, S. Suzuki, K. Nakamura, S. Ito, Y. Diastereomeric resolution directed towards chirality determination focussing on gas-phase energetics of coordinated sodium dissociation; *Scientific Reports*, 6, doi: 10.1038/srep24005 (2016).
- Sheng-Biao Wang, Mu-Tian Cui, Xiao-Feng Wang, Emika Ohkoshi, Masuo Goto, De-Xuan Yang, Linna Li, Shoujun Yuan, Susan L. Morris-Natschke, Kuo-Hsiung Lee, Lan Xie Synthesis, biological evaluation, and physicochemical property assessment of 4-substituted 2-phenylaminoquinazolines as Mer tyrosine kinase inhibitors. *Bioorganic & Medicinal Chemistry*, Volume 24, Issue 13, 1 July 2016, Pages 3083–3092
- Ichijo Y, Mochimaru Y, Azuma M, Satou K, Negishi J, Nakakura T, Oshima N, Mogi C, Sato K, Matsuda K, Okajima F, Tomura H. Two zebrafish G2A homologs activate multiple intracellular signaling pathways in acidic environment. *Biochem Biophys Res Commun.* 469: 81-86 (2016)
- Fukuda H, Ito S, Watari K, Mogi C, Arisawa M, Okajima F, Kurose H, Shuto S. Identification of a Potent and Selective GPR4 Antagonist as a Drug Lead for the Treatment of Myocardial Infarction. *ACS Med Chem Lett.* 7: 493-497 (2016)
- Daisuke Kobayashi, Akiharu Ueki, Tomoya Yamaji, Kazuya Nagao, Akihiro Imamura, Hiromune Ando, Makoto Kiso and Hideharu Ishida. Efficient Synthesis of the Lewis A Tandem Repeat. *Molecules*, in press.
- Murai N, Sekizawa T, Gotoh T, Watabiki T, Takahashi M, Kakimoto S, Takahashi Y, Iino M, Nagakura Y. Spontaneous and evoked pain-associated behaviors in a rat model of neuropathic pain respond differently to drugs with different mechanisms of action. *Pharmacol Biochem Behav* 141:10-17, 2016.

(総説論文)

岡島史和: 炎症性疾患とプロトン感知性受容体 *医学の歩み* 256: 583-589 (2016)

[学会報告、学会活動など]

大上 哲也 3月19日 認知症ケア研究会、「認知症トピックス」をテーマに講演
(於：青森中央市民センター)

三浦 裕也 6月18日 日本薬学会東北支部学術講演会、「ジェネリック医薬品使用実績の変遷
における薬剤学的検討」仙台

[社会活動・地域貢献など]

中田 和一 平成27年度 あおもり ITS 推進研究会, 平成28年1月26日, 会長, 青森市福祉
増進センター

天内 博康 青森大学×平内町連携プロジェクト実行委員会委員
※平内町若者ネットワークづくり事業「ひらないの語り場」など企画・運営

大越 絵実加 3/6(日)10:00~16:00 青大薬すこやか健康セミナー開催 (青森市新町)
主催: 青大薬すこやか成分研究会
助成: 青森市まちなかフィールドスタディ支援事業

大上 哲也 「認知症の方々の杖となれるように」を研究室のスローガンとし下記の活動を実施。

2月13日 幸畑団地いきいき脳健康クラブ (於: 青森市交流ハウス 安住増し家)
(青森市元気都市あおもり健康市民応援成活動)

2月20、21日 中学・高校生対象 模擬薬局セミナー〜高齢者・認知症編
(於: 青森大学) (国立青少年教育進行機構 子ども夢基金助成活動)

3月19日 青森いきいき脳健康教室 (於: アスパム)
(青森市元気都市あおもり健康市民応援成活動)

5月28日~6月6日 岩木健康増進プロジェクト健診、認知機能検査 (於: 岩木文化
センター) (弘前市、弘前大学との共同研究の一環)

6月7日~6月13日 弘前いきいき健診、認知機能検査 (於: 岩木文化センター)
(弘前市、弘前大学との共同研究の一環)